

## 小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2021年7月から9月
2. 調査対象：小樽市内の企業272社
3. 内 訳：製造業62、卸売業27、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業46  
サービス業39、建設業34
4. 回答企業数：180社（66.1%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

### 概 況

#### 一 業況は改善するも、原材料費の高騰で厳しい経営環境が続く 一

前年同期（2020年7月～9月）と比べた今期（2021年7月～9月）の状況  
今期と比べた来期（2021年10月～12月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは▲26.7で、前年同期と比べ22.7ポイント上昇しました。緊急事態宣言の影響で、観光関連産業、飲食店、旅客運送を中心に業況DIが低調に推移しました。需要の停滞や原材料価格、商品仕入価格、燃料費の高騰が課題です。

業種別DIは、製造業が同45.4ポイント上昇の▲5.6となりました。業況DI、売上DI、採算DIのいずれも好転しましたが、金属製品製造では全社で、食品製造では約9割の企業で原材料価格が上昇したとの回答がありました。卸売業は同39.0ポイント上昇の▲21.0となりました。業況DI、売上DI、採算DIのいずれも大幅に好転し、売上単価DIがプラスに転じましたが、仕入単価DIも大幅に上昇しました。小売業は同4.0ポイント上昇の▲36.0となりました。売上DIは大幅に上昇しましたが、業況DIは回答に占める不変の割合が増加しており、限定的な回復にとどまりました。運輸・倉庫業は同3.9ポイント上昇の▲27.7となりました。昨年同期は、旅客運送の全社、貨物運送の約8割の企業で売上が減少したとの回答がありましたが、今期は両業種とも約半数の企業が好転または不変と回答しており、売上の減少傾向は弱まりつつあります。倉庫は前年同期の状況と大きな変化はありませんでした。観光業は同44.5ポイント上昇の▲52.8となりました。業況DI、採算DI、売上DIいずれも大幅に好転しましたが、回答に占める悪化または減少の割合が6割を超えており、依然として厳しい状況にあります。サービス業は同16.1ポイント上昇の▲30.5となりました。飲食業では全ての企業で仕入単価が上昇し、8割強の企業で採算と業況が悪化しました。人件費の増加、利用者ニーズの変化への対応が主な課題です。建設業は同6.2ポイント上昇の▲13.1となりました。業況DIと売上DIは上昇しましたが、材料仕入価格が上昇傾向にあり、採算DIが低下しました。

来期の業況判断DIは▲21.1で、悪化傾向が続くと予想しています。新型コロナウイルスのワクチン接種の拡大や、緊急事態宣言の解除による人流の回復が期待されますが、仕入価格や燃料費の高騰による採算の悪化、新型コロナウイルスの再流行が懸念されます。また、コロナ禍によって変容した国民の生活様式は当面の間変わらない可能性も指摘されており、企業にとって先行きを見通せない状況が続くと思われれます。

業況、売上、採算

今期（2021.7～9）の業況判断DIは▲26.7で、前年同期(2020.7～9)と比べ22.7ポイント上昇しました。

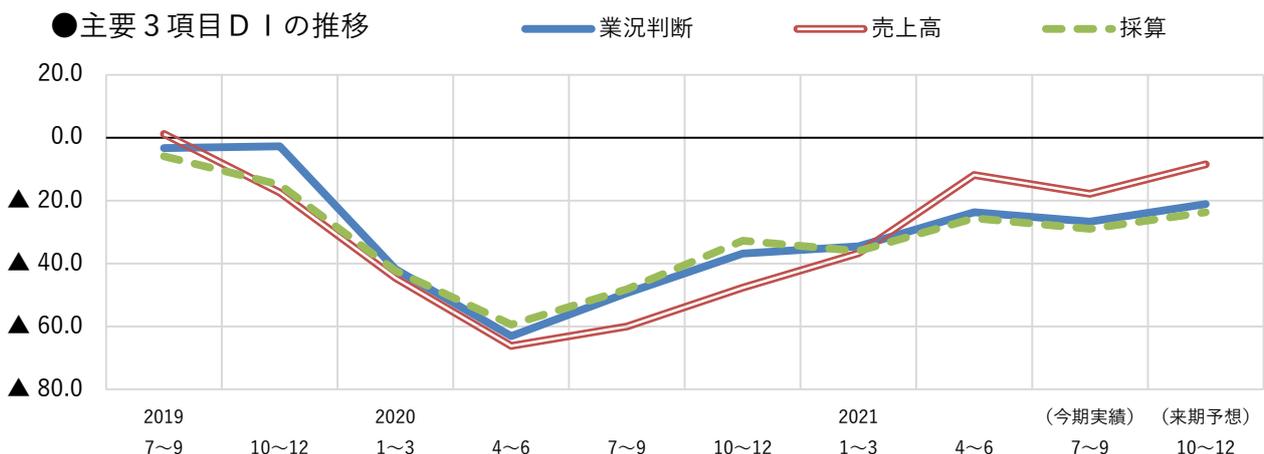
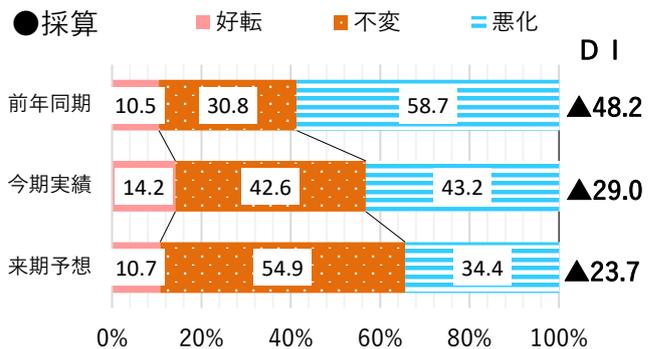
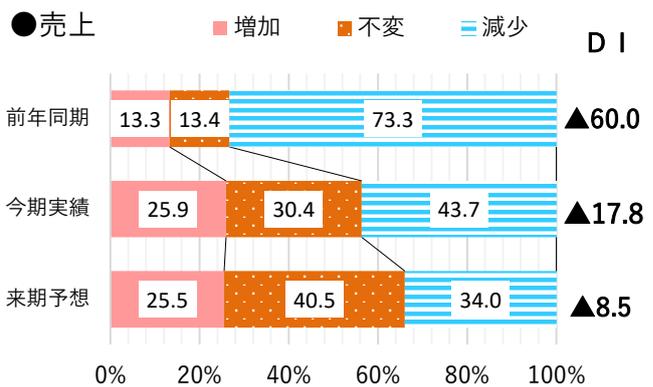
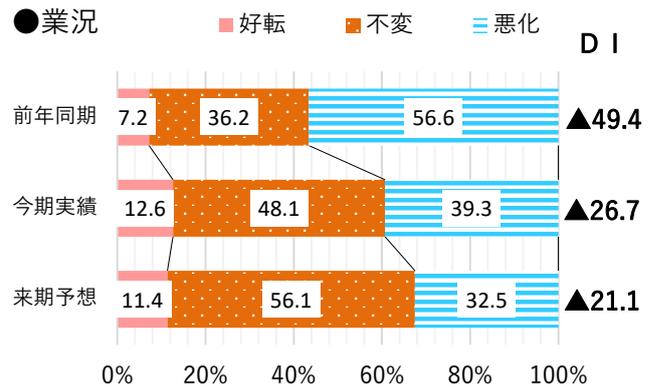
来期（2021.10～12）は、業況の悪化傾向が続くと予想しています。

今期の売上DIは▲17.8で、前年同期と比べ42.2ポイント上昇し、大幅に増加しました。

来期は、売上の減少傾向が弱まると予想しています。

今期の採算DIは▲29.0で、前年同期と比べ19.2ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



従業員、今期の雇用状況

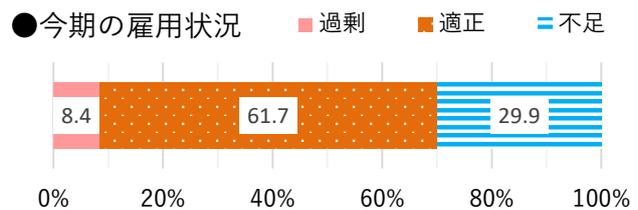
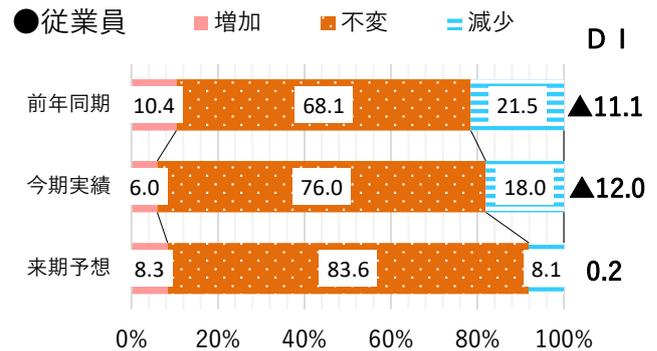
今期の従業員DIは▲12.0で、前年同期と比べ0.9ポイント低下しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。

今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は8.4%、適正であると回答した企業の割合は61.7%、不足していると回答した企業の割合は29.9%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、全業種の49.4%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

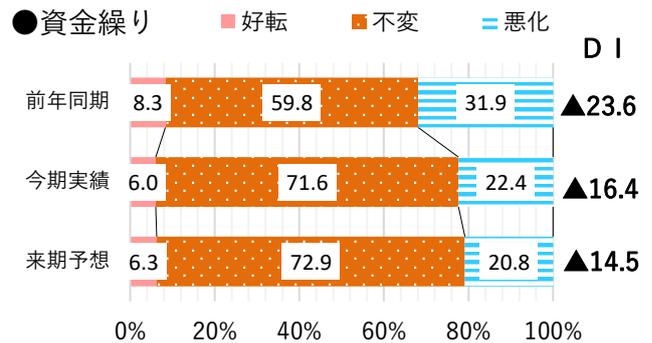


今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	6
	不足	2
不変だった	過剰	8
	適正	89
	不足	37
減少した	過剰	9
	適正	13
	不足	15

資金繰り、設備投資

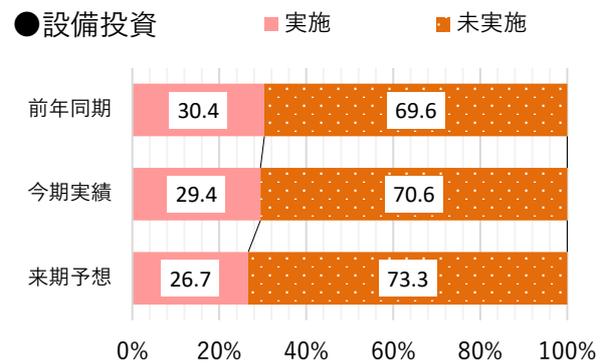
今期の資金繰りDIは▲16.4で、前年同期と比べ7.2ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が続くと予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった180社の29.4%にあたる53社が実施、前年同期と比べ1.0%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「OA機器」の順です。

来期は、26.7%にあたる48社が設備投資を計画していると回答しています。

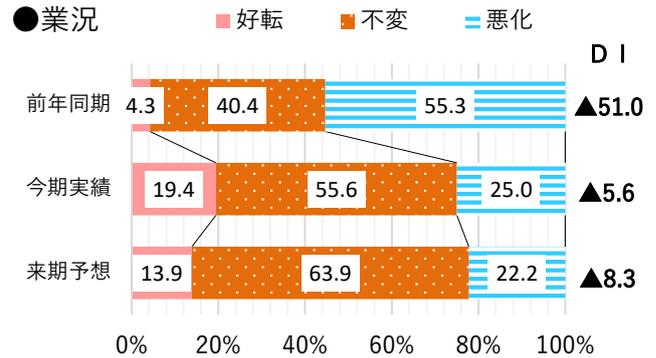


# 製造業

## 業況、売上、採算

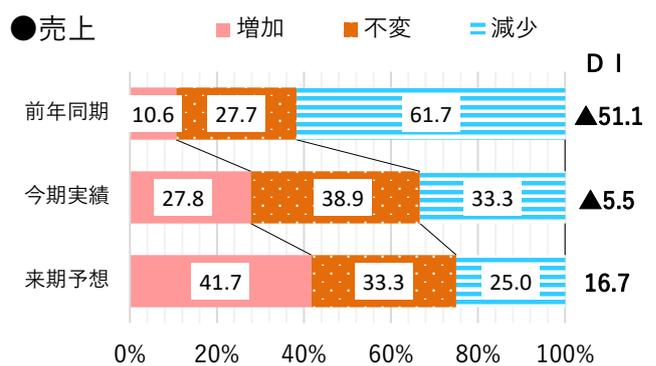
今期(2021.7~9)の業況判断DIは▲5.6で、前年同期(2020.7~9)と比べ45.4ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期(2021.10~12)は、業況の悪化傾向が続くと予想しています。



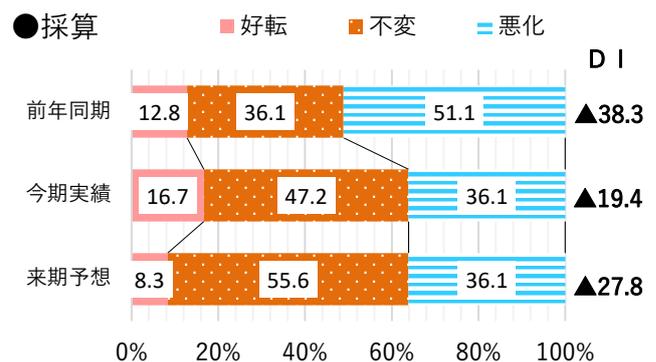
今期の売上DIは▲5.5で、前年同期と比べ45.6ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期は、売上がプラスに転じると予想しています。

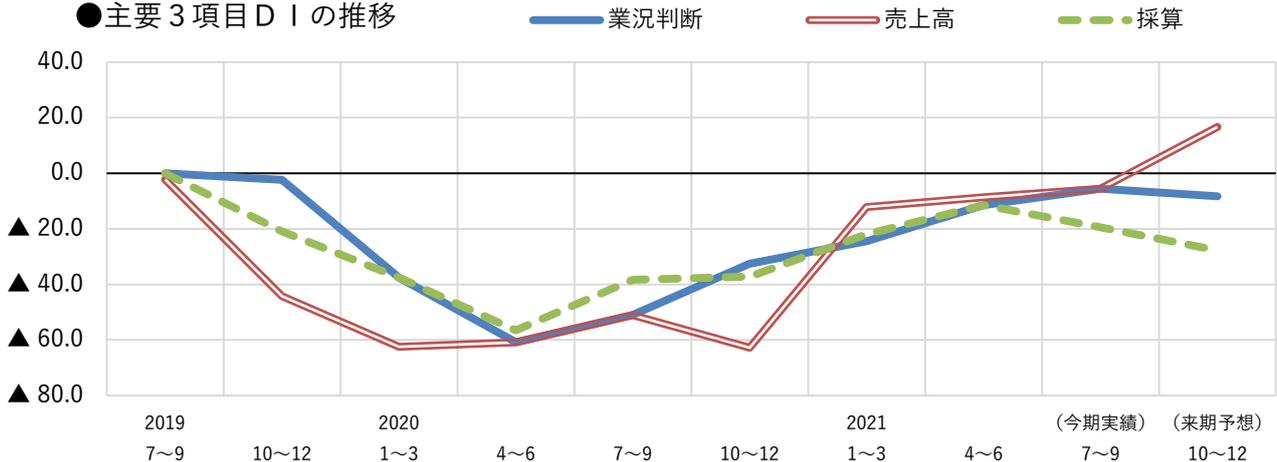


今期の採算DIは▲19.4で、前年同期と比べ18.9ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



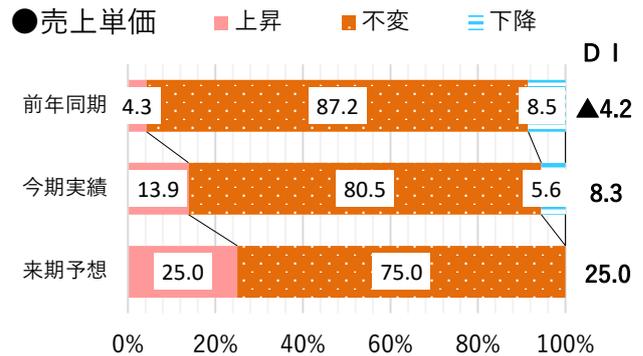
### ●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

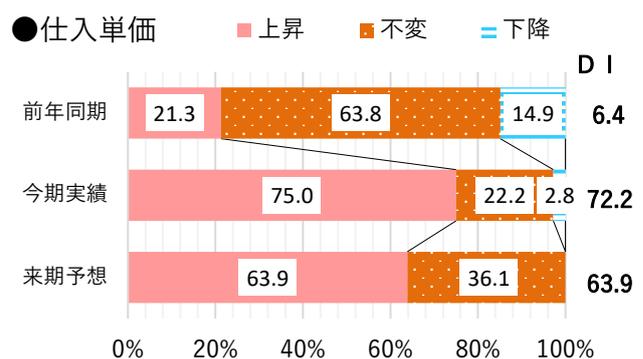
今期の売上単価DIは8.3で、前年同期と比べ12.5ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上単価の上昇傾向が強まると予想しています。



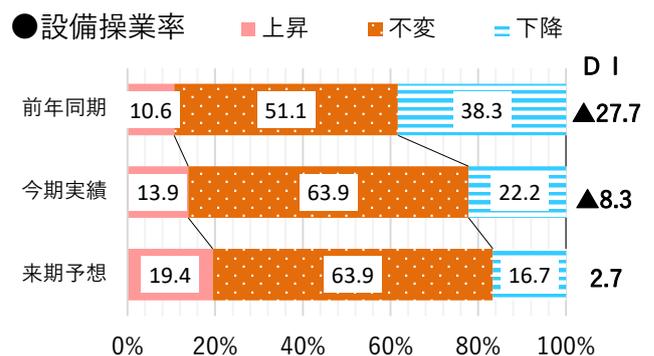
今期の仕入単価DIは72.2で、前年同期と比べ65.8ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の設備操業率DIは▲8.3で、前年同期と比べ19.4ポイント上昇しました。

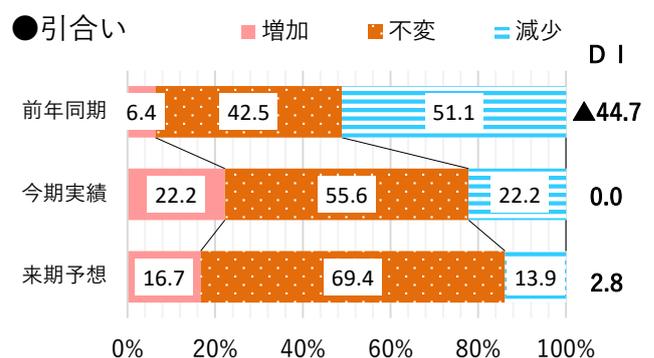
来期は、設備操業率がプラスに転じると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは0.0で、前年同期と比べ44.7ポイントと大幅に上昇しました。

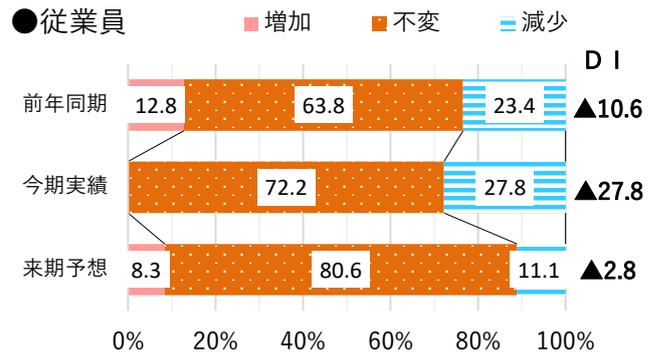
来期は、引合いがプラスに転じると予想しています。



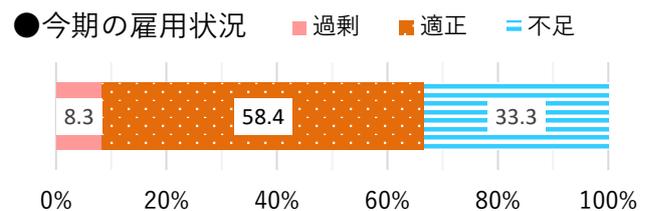
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲27.8で、前年同期と比べ17.2ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は8.3%、適正であると回答した企業の割合は58.4%、不足していると回答した企業の割合は33.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の50.0%を占めています。

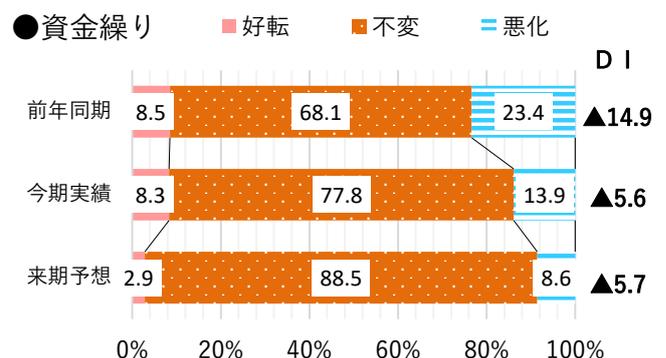
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	18
	不足	8
減少した	過剰	3
	適正	3
	不足	4

資金繰り、設備投資

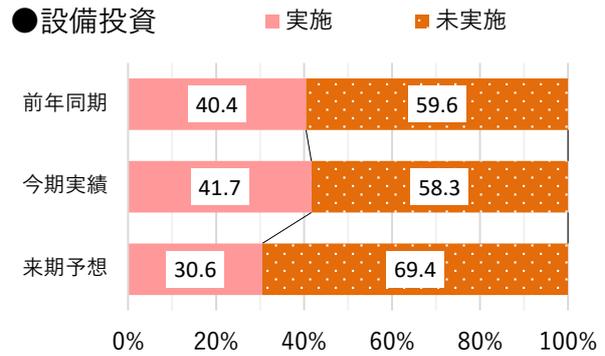
今期の資金繰りDIは▲5.6で、前年同期と比べ9.3ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りに大きな変化はないと予想しています。



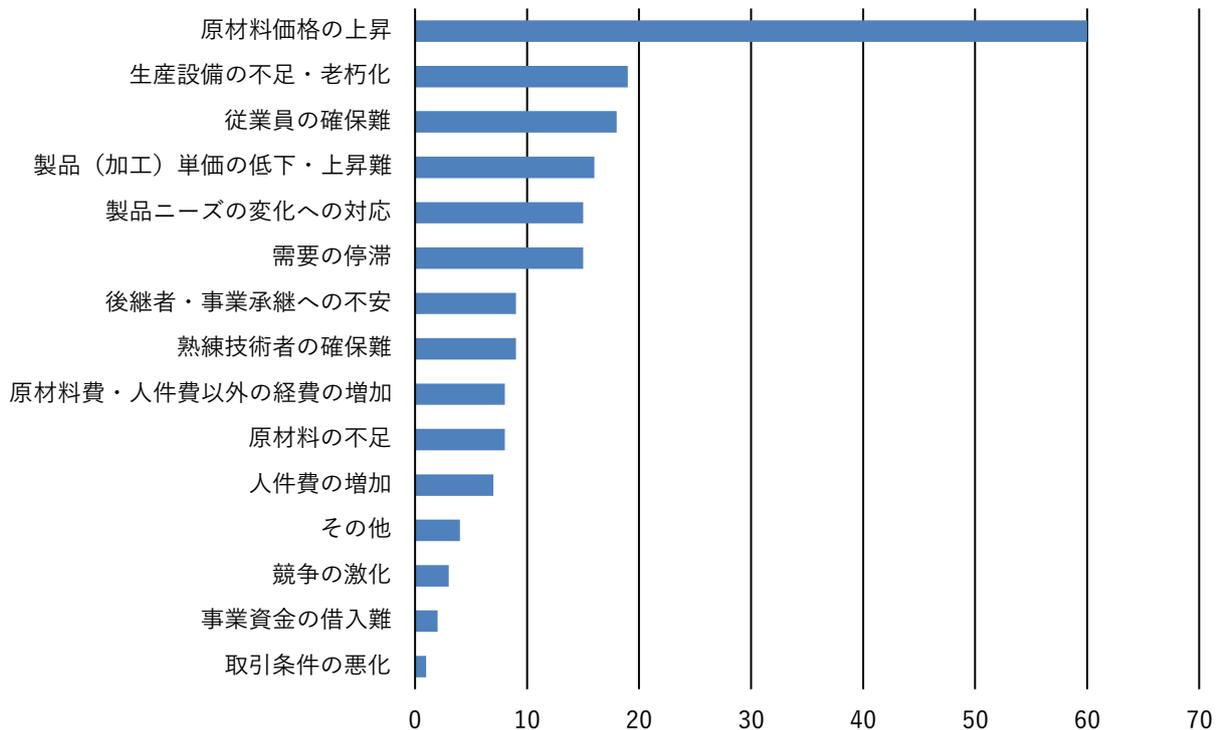
設備投資を実施した企業の割合は41.7%で、前年同期と比べ1.3%上昇しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「車両運搬具」、「O A 機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は30.6%で、低下を予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「生産設備の不足・老朽化」、3位が「従業員の確保難」の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- 原材料価格の上昇よりも、原材料不足が深刻な状況にある。（金属製品）
- 人手不足のため、従業員の負担が大きくなっている。（金属製品）
- 原材料価格が高騰しており、受注が困難だった。（金属製品）
- 新型コロナウイルスへの対応に追われた。（ゴム製品）
- 売上高は前年並みだったが、コロナ禍前（一昨年）と比較すると8%以上減少した。原材料価格が上昇しているが、販売価格への転嫁は難しい。（プラスチック）
- 原材料仕入単価が上昇しているが、販売価格に転嫁できない状況にある。（プラスチック）

- 大型案件の受注は無く、小型取引の積み重ねが中心だった。（機械器具）
- コロナ禍による原材料の入荷遅れと生産効率の低下のため、業績が悪化した。（衣服）
- コロナ禍により、本来5月に到着する主力原料（カナダ、アラスカ産のニンシ、数の子）の納入が遅れ、今期に納入されたため、工場の操業度が上昇した。加工品の販売は堅調に推移している。（食料品）
- 昨年同期比の売上は増加したが、一昨年同期比では4割減少した。（食料品）
- 7月中旬以降の猛暑によって、昨年より夏物の売上が増加した。（食料品）
- 売上はまずまずだが、利益が出ない。（食料品）
- 工場作業員が不足している。（食料品）
- 巣ごもり需要に一服感が見られ、期待していたほど売上が増加しなかった。（飲料）
- 新型コロナウイルスの影響が前年度から続き、業況が悪化している。（医薬品）
- 新型コロナウイルスの影響に加え、熱海市の土石流ならびに大雨の影響で、東北地方を中心に土木関係の仕事に遅れが生じている。新規雇用で技術を伝えていきたいが、躊躇している。（その他繊維製品）

## [来期の業況について]

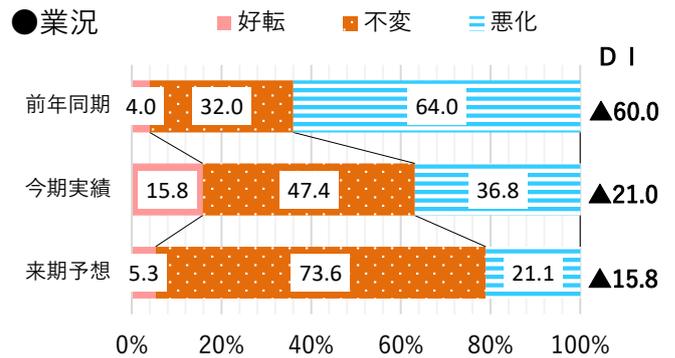
- 今期同様、原材料の確保を意識しながらの窮屈な営業活動を強いられる。（金属製品）
- 原材料価格の高騰が続くと思われる。（金属製品）
- 従業員を募集する。（金属製品）
- 機械設備の更新により、設備操業率の上昇と売上の増加を見込む。（ゴム製品）
- 季節要因で売上は増加すると思われるが、一昨年との比較では10%程度の減少を見込む。コロナ禍によって新規の案件は少なく、原材料価格の上昇が続くため、厳しい状況が続くと思われる。利益が小さい案件は、受注価格の引き上げが受け入れられなければ、断る姿勢で臨む。（プラスチック）
- 引き続き原材料仕入単価が上昇すると思われる。公共事業の発注が前倒しになった影響で、引合いや受注残が減少すると思われる。（プラスチック）
- 製造ラインの稼働率が多少上向くと思われる。（機械器具）
- 国には、国民の7割に対するワクチン接種を年内に実施し、経済対策を進めてもらいたい。新総理の取り組みに期待する。（紙製品）
- 昨年はスーパーでミニ物産展を実施し、コロナ禍においても健闘した時期だが、今年度は受注が少なく、昨年の売上を下回る可能性がある。（食料品）
- コロナ禍の影響は分からない。主力原料の到着時期のずれ込みが影響し、工場の操業度が更に上昇すると思われる。（食料品）
- 売上の増加を見込むが、原材料費の上昇と最低賃金の引き上げで、採算が悪化すると思う。（食料品）
- 既に受注があるが、利益を残せるか不安に感じている。（食料品）
- 新商品の発売で、巻き返しを図りたい。（飲料）
- 新型コロナウイルスの勢いが弱まり、景気回復に向かってほしいと思うが、売上等の好転は限定的なものにとどまると思われる。（医薬品）
- 今期最低だった官需がどこまで回復するか、遅れている土木関係の仕事が動くかどうかで、業況は変化すると思われる。（その他繊維製品）

# 卸 売 業

## 業況、売上、採算

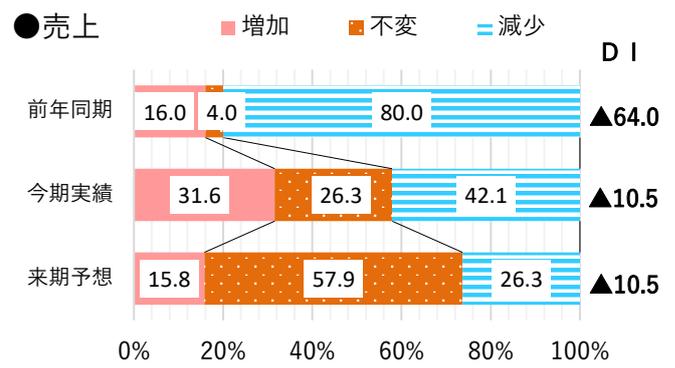
今期(2021.7～9)の業況判断DIは▲21.0で、前年同期(2020.7～9)と比べ39.0ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期(2021.10～12)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



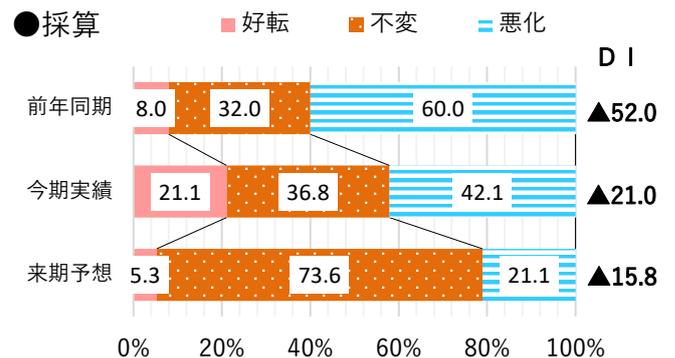
今期の売上DIは▲10.5で、前年同期と比べ53.5ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、売上の横ばいを予想しています。

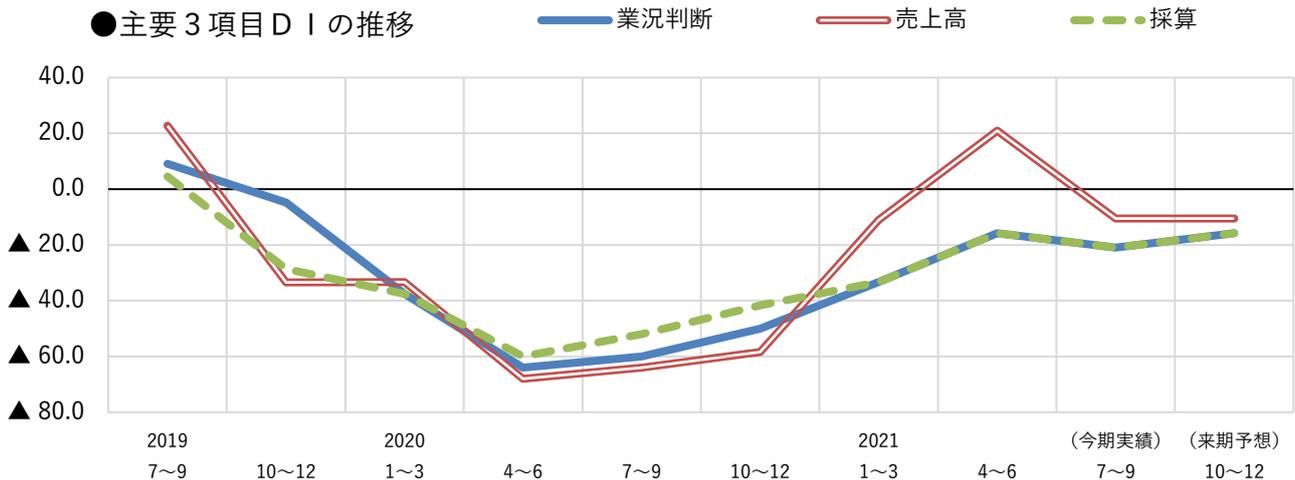


今期の採算DIは▲21.0で、前年同期と比べ31.0ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



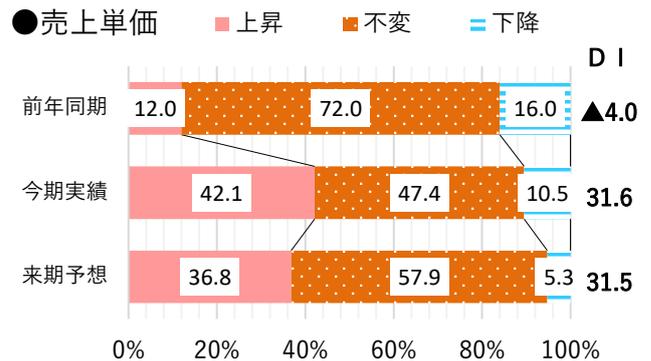
●主要3項目DIの推移



## 売上単価、商品仕入単価

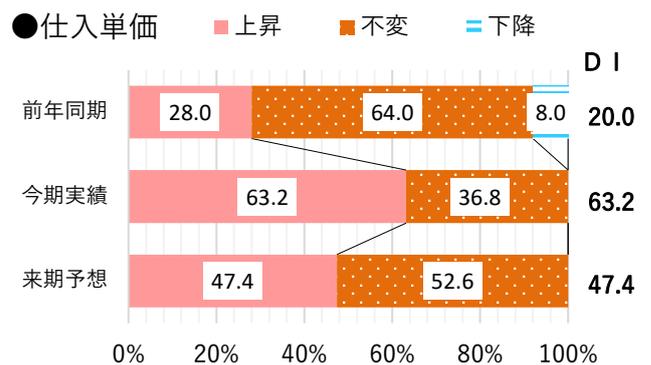
今期の売上単価DIは31.6で、前年同期と比べ35.6ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上単価の上昇傾向に大きな変化はないと予想しています。



今期の仕入単価DIは63.2で、前年同期と比べ43.2ポイントと大幅に上昇しました。

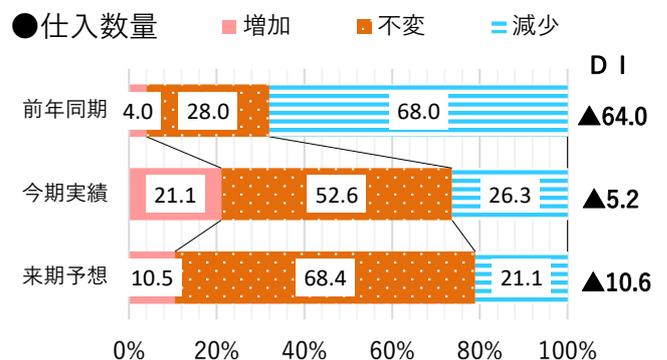
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



## 商品仕入数量、商品在庫数量

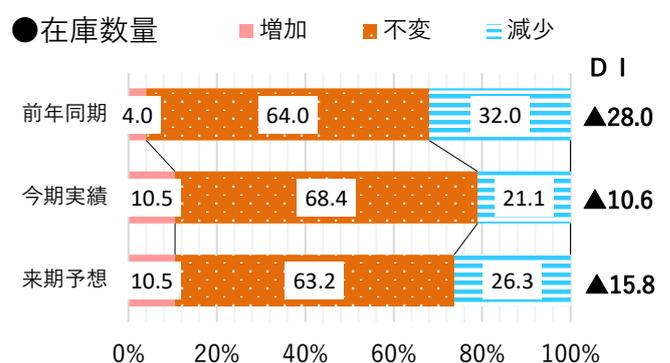
今期の仕入数量DIは▲5.2で、前年同期と比べ58.8ポイント上昇し、大幅に増加しました。

来期は、仕入数量の減少傾向が続くと予想しています。



今期の在庫数量DIは▲10.6で、前年同期と比べ17.4ポイント上昇しました。

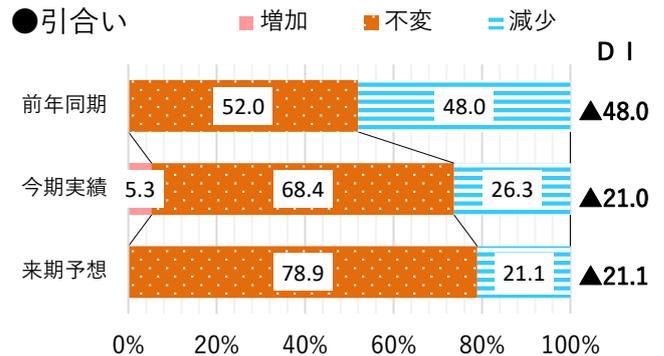
来期は、在庫数量の減少傾向が続くと予想しています。



## 引合い

今期の引合いDIは▲21.0で、前年同期と比べ27.0ポイント上昇しました。

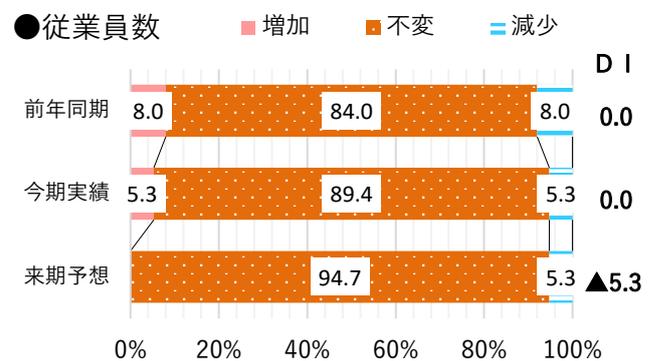
来期は、引合いの減少傾向に大きな変化はないと予想しています。



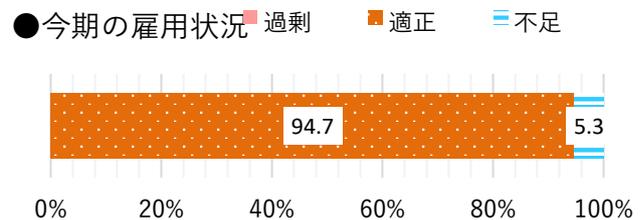
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

来期は、従業員数がマイナスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は94.7%、不足していると回答した企業の割合は5.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の84.2%を占めています。

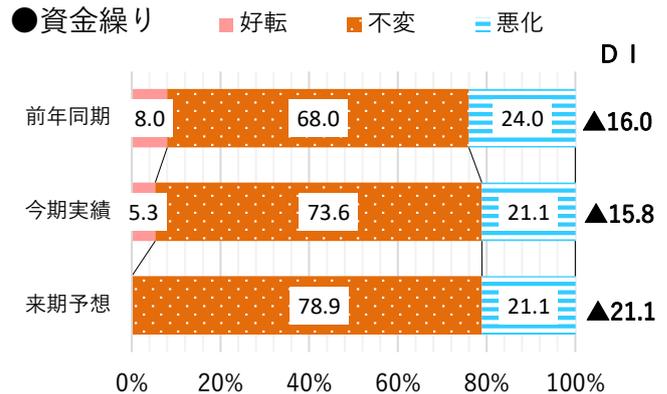
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で増加し、充足している」「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」「従業員数は前年同期比で減少し、充足している」（同位）という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	16
	不足	1
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	0

## 資金繰り、設備投資

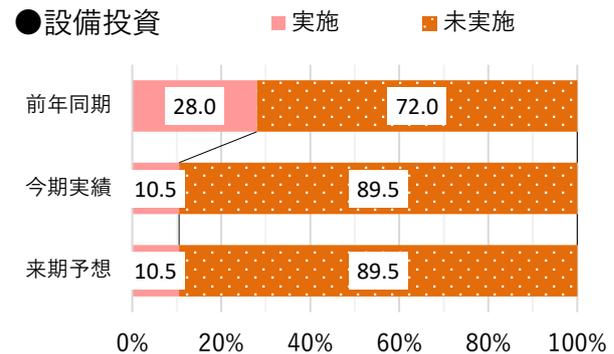
今期の資金繰りDIは▲15.8で、前年同期と比べ0.2ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が続くと予想しています。



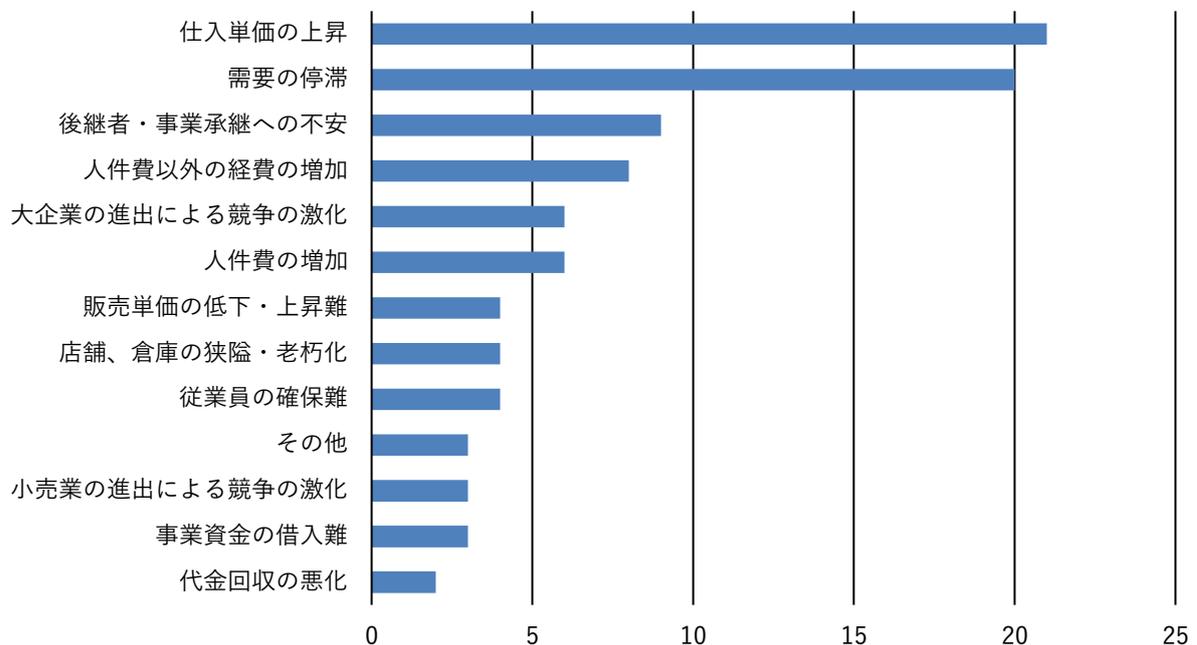
設備投資を実施した企業の割合は10.5%で、前年同期と比べ17.5%減少しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、「OA機器」（同位）でした。

来期に設備投資を計画している企業の割合は10.5%で、横ばいを予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「需要の停滞」、3位が「後継者・事業承継への不安」の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- 原油価格が前年同期比で上昇しており、仕入単価が上昇した。(石油卸売)
- 建築資材の値上げ分の価格転嫁に苦労している。(建築材料卸売)
- 新型コロナウイルスの感染リスクに悩まされている。早く元の生活が戻ることを願う。(自動車部品卸売)
- 一部入手困難な商品があり、確保に苦労している。(鉱物・金属材料卸売)
- 売上、収益ともに対前年比で1～2割程度プラスとなった。(食料・飲料卸売)
- 新型コロナウイルスの影響で、売上が減少した。(食料・飲料卸売)
- 各月の売上は昨年度を下回った。原油価格の高騰で、全ての商品の価格が上昇した。(産業用機械器具卸売)
- 昨年比の売上は増加し、コロナ禍前まで回復しつつある。(塗料卸売)

## [来期の業況について]

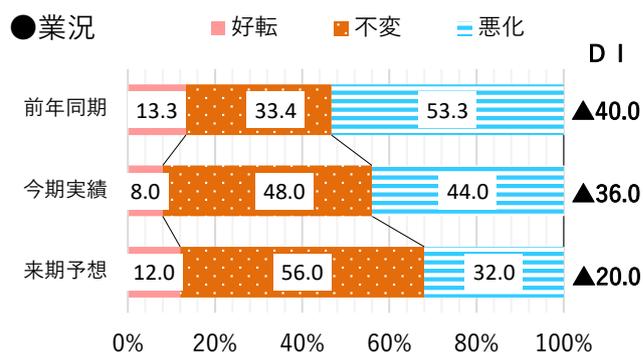
- 原油価格が上昇と下降を繰り返しており、業況は大きく変わらないと思われる。(石油卸売)
- 小樽市内の新幹線工事が本格的に始まり、売上が増加すると思われる。(建築材料卸売)
- 全てにおいて、新型コロナウイルスの状況に左右される。(食料・飲料卸売)
- 冬期用品(スタッドレスタイヤ、スノーブレード等)の売上が増加する。(自動車部品卸売)
- 商品価格の上昇に伴い、販売量が減少すると思われるが、引合い等の状況から判断すると、極端な落ち込みにはならないと思われる。(鉱物・金属材料卸売)
- 仕入単価が上昇するので、上手く販売価格に転嫁できるかが課題となる。(塗料卸売)

# 小 売 業

## 業況、売上、採算

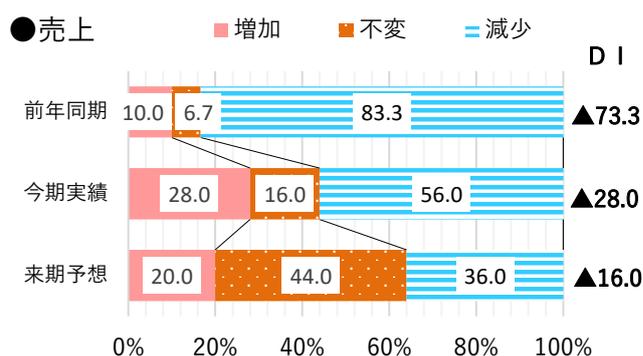
今期(2021.7~9)の業況判断DIは▲36.0で、前年同期(2020.7~9)と比べ4.0ポイント上昇しました。

来期(2021.10~12)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



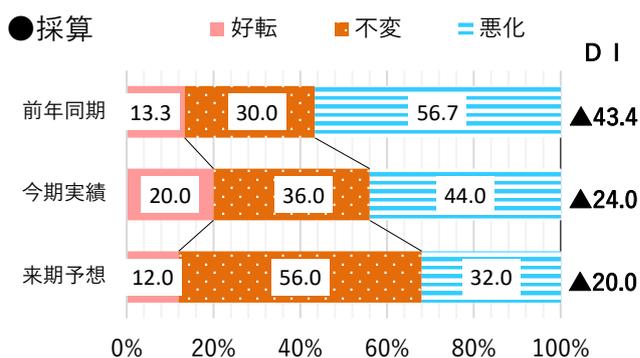
今期の売上高DIは▲28.0で、前年同期と比べ45.3ポイント上昇し、大幅に増加しました。

来期は、売上の減少傾向が弱まると予想しています。

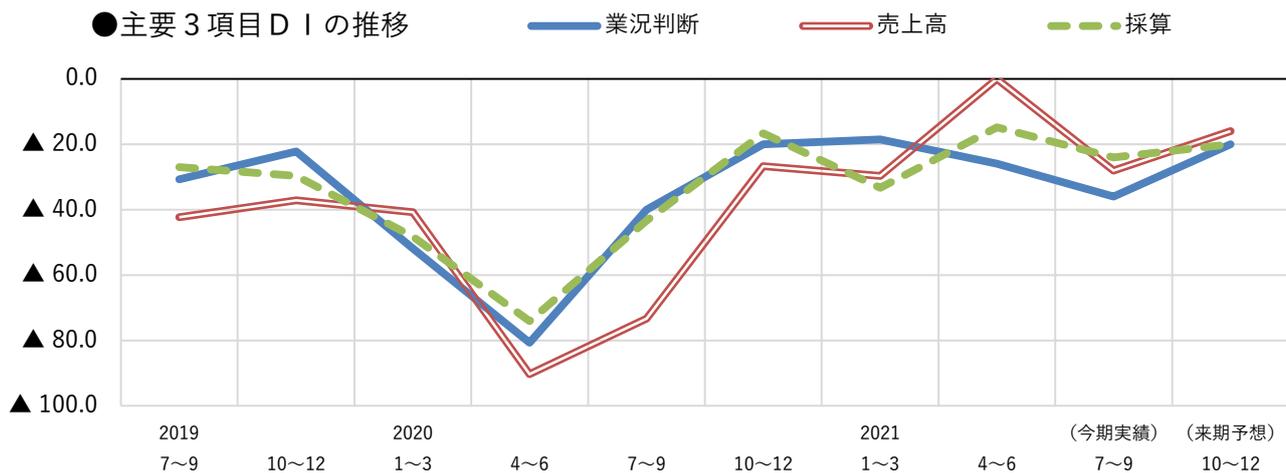


今期の採算DIは▲24.0で、前年同期と比べ19.4ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



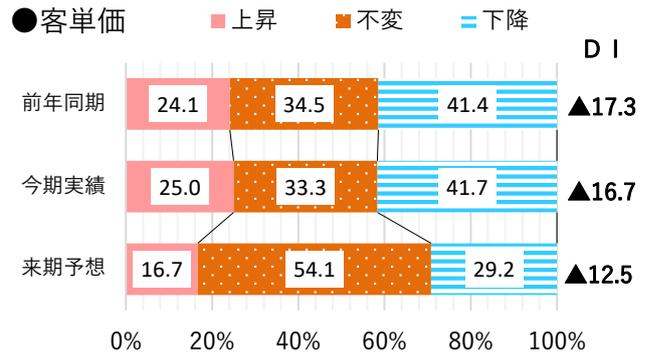
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

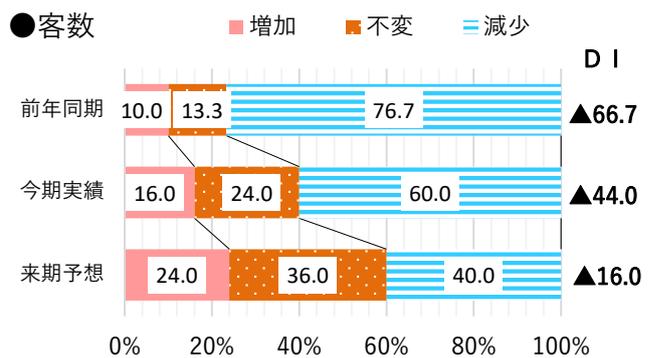
今期の客単価DIは▲16.7で、前年同期と比べ0.6ポイント上昇しました。

来期は、客単価の下降傾向が続くと予想しています。



今期の客数DIは▲44.0で、前年同期と比べ22.7ポイント上昇しました。

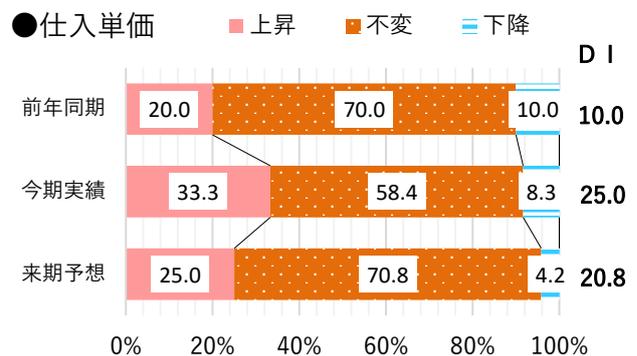
来期は、客数の減少傾向が弱まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

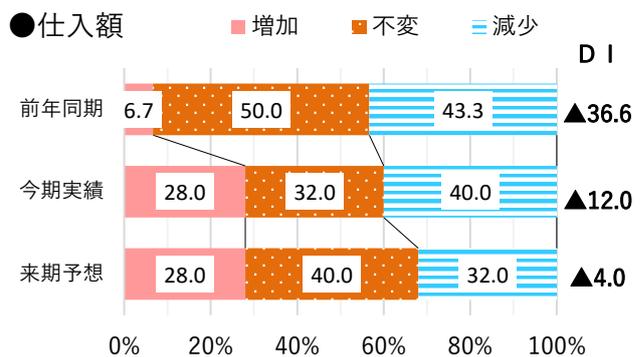
今期の仕入単価DIは25.0で、前年同期と比べ15.0ポイント上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



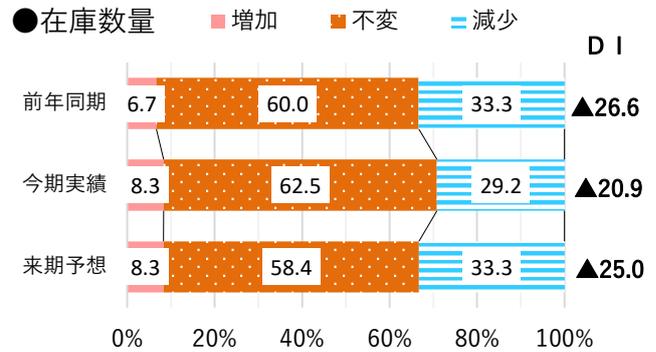
今期の仕入額DIは▲12.0で、前年同期と比べ24.6ポイント上昇しました。

来期は、仕入額の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲20.9で、前年同期と比べ5.7ポイント上昇しました。

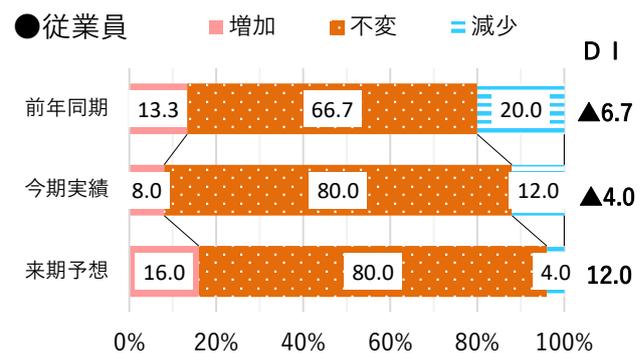
来期は、在庫数量の減少傾向が強まると予想しています。



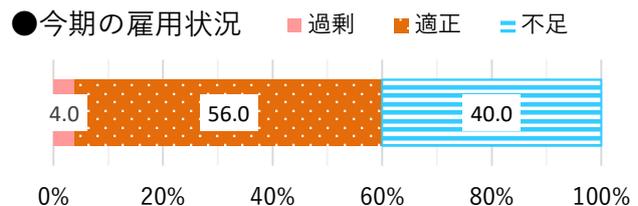
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲4.0で、前年同期と比べ2.7ポイント上昇しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は4.0%、適正であると回答した企業の割合は56.0%、不足していると回答した企業の割合は40.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の52.0%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	13
	不足	7
減少した	過剰	1
	適正	1
	不足	1

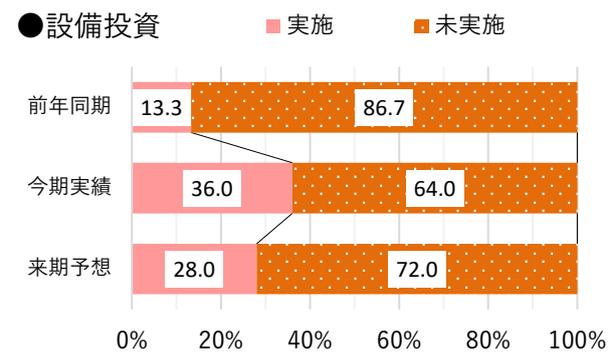
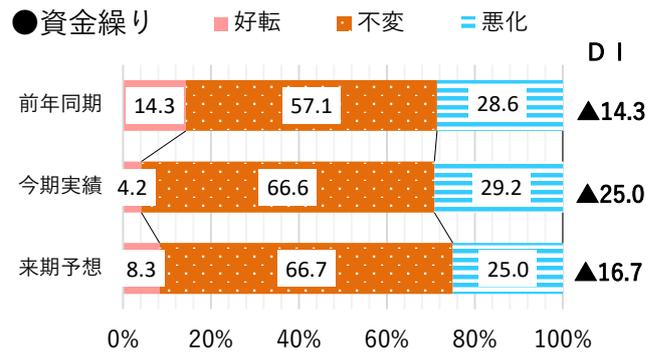
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲25.0で、前年同期と比べ10.7ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。

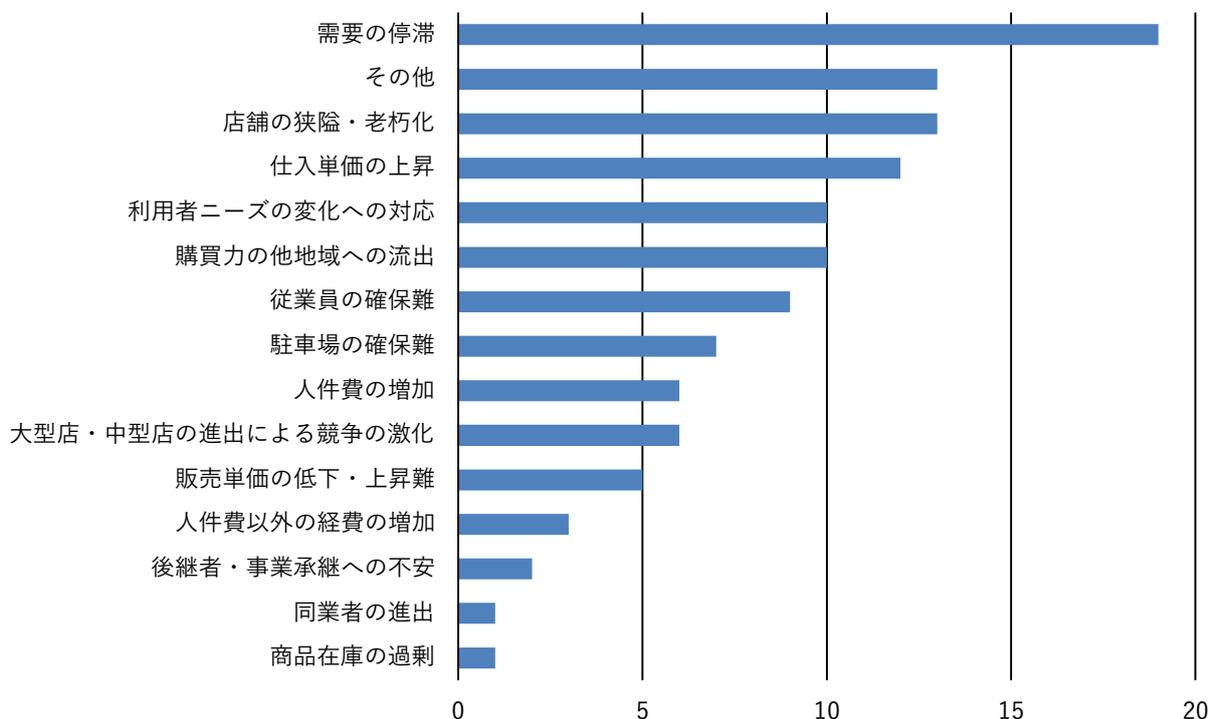
設備投資を実施した企業の割合は36.0%で、前年同期と比べ22.7%上昇しました。投資内容は1位が「店舗」、2位が「販売設備」、「車両運搬具」、「OA機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は28.0%で、低下を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「需要の停滞」、2位が「その他」、「店舗の狭隘・老朽化」（同位）、3位が「仕入単価の上昇」の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- 緊急事態宣言等の影響で、全ての面で悪化している。好転する要素が見当たらないので、手の打ちようがない。ネットショップの販売は堅調に推移している。(食料品小売)
- コロナ禍による営業自粛や行動制限の要請が終わらない限り、現状が続くと思う。小麦や油関係の値上げが予定されており、売上が減少する中での利益縮小に頭を痛めている。(菓子製造小売)
- 店舗数が増加し、昨年ほどコロナ禍の影響がないため、売上が増加した。(衣服・身の回り品小売)
- 若年層でのデルタ株流行や、都市間の往来自粛要請等の影響で、市民の不安が増大しているように思う。まちの人通りや、活気の回復に期待する。(衣服・身の回り品小売)
- コロナ禍においても、業績に大きな変化はない。(家具・建具・畳小売)
- 新型コロナウイルスの影響で半導体が不足し、海外部品の生産が止まった。車両の納入が遅れており、売上が減少した。(自動車小売)
- 各メーカーで新車の納車が遅れたため、新車の販売が減少した。(自動車小売)
- 業況は新型コロナウイルスの動向に左右されている。前年同期比の売上、客数はともに好転したが、設定した予算額には届かない。食品、日用品の売上は持ち直しているが、衣料品は不要不急の商品のため伸び悩んでおり、店舗全体の業績を押し下げる要因となっている。(大型店)
- 直近の営業数値を見る限り、売上等は下げ止まったように思われる。(大型店)
- 客数は減少したが、商品の値上げにより売上単価が上昇した。(ホームセンター)
- 昨年の8月、9月は取引先の売上が回復し、自社の売上も伸長したが、今年は緊急事態宣言の延長により苦戦している。(コンビニ)
- 新型コロナウイルスの影響で売上、客数、客単価いずれも悪化した。(コンビニ)
- 巣ごもり消費の影響で、顧客がネット販売に流れている。(ドラッグストア)
- コロナ禍による消費活動の減少、イベントの中止や縮小によって売上は減少した。(花・植木小売)

## [来期の業況について]

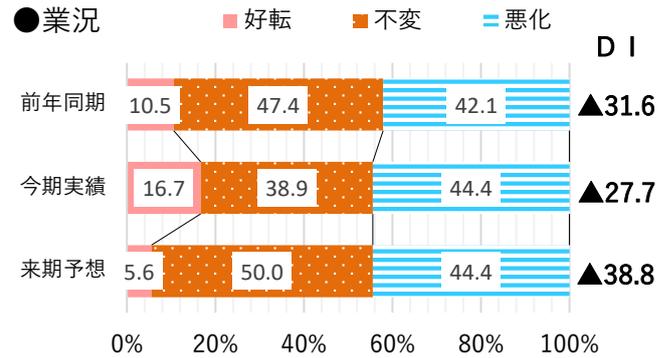
- 新型コロナウイルスの状況が少しでも好転するよう願っている。(食料品小売)
- 先が見通せず、不安な状況に変わりはない。(菓子製造小売)
- ワクチン接種の拡大による、新型コロナウイルス感染者の減少に期待する。(衣服・身の回り品小売)
- 店舗数の増加と、業況改善が続くと思われる。(衣服・身の回り品小売)
- 厳しい状況にあり、今のままでは全てにおいて見通しが立たない。(衣服・身の回り品小売)
- 秋以降に大きな工事が予定されており、業況の好転が見込まれる。(家具・建具・畳小売)
- これまでの状況から判断すると、厳しい業況が予想される。(自動車小売)
- 業況の悪化を見込む。(自動車小売)
- 今期同様に、前年同期比では回復基調になると思われるが、一昨年をベースとした数値まで回復できるのか不安を感じている。業績が回復しなければ、売場設備への投資金額の回収が遅れる。(大型店)
- インバウンドや新型コロナウイルスの状況次第では、飛躍的な改善が見込まれる。(大型店)
- 業況は今期と同じ状況が続くと思われる。最低賃金の引き上げにより、人件費率が増加する。販管費を見直し、経常利益を維持したい。(ホームセンター)
- 新型コロナウイルスの終息と、Go Toキャンペーンの再開に期待する。(コンビニ)
- 最低賃金の引き上げで利益率が低下する。新型コロナウイルスの終息を願う。(コンビニ)
- ネット販売の強化等、ポストコロナを見据えた経営が必要だと思われる。(ドラッグストア)
- コロナ禍のライフスタイルが当たり前になっているため、業況は変わらないと思う。(花・植木小売)

# 運輸・倉庫業

## 業況、売上、採算

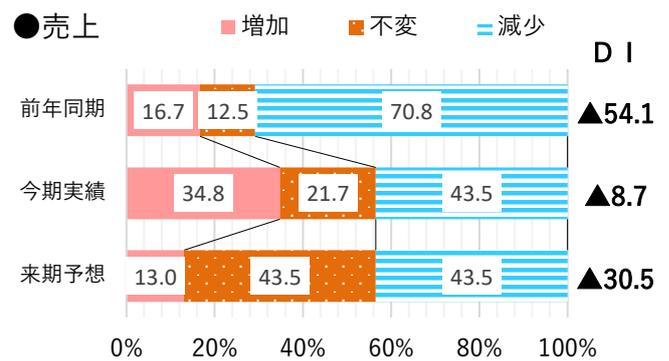
今期（2021.7～9）の業況判断DIは▲27.7で、前年同期（2020.7～9）と比べ3.9ポイント上昇しました。

来期（2021.10～12）は、業況の悪化傾向が強まると予想しています。



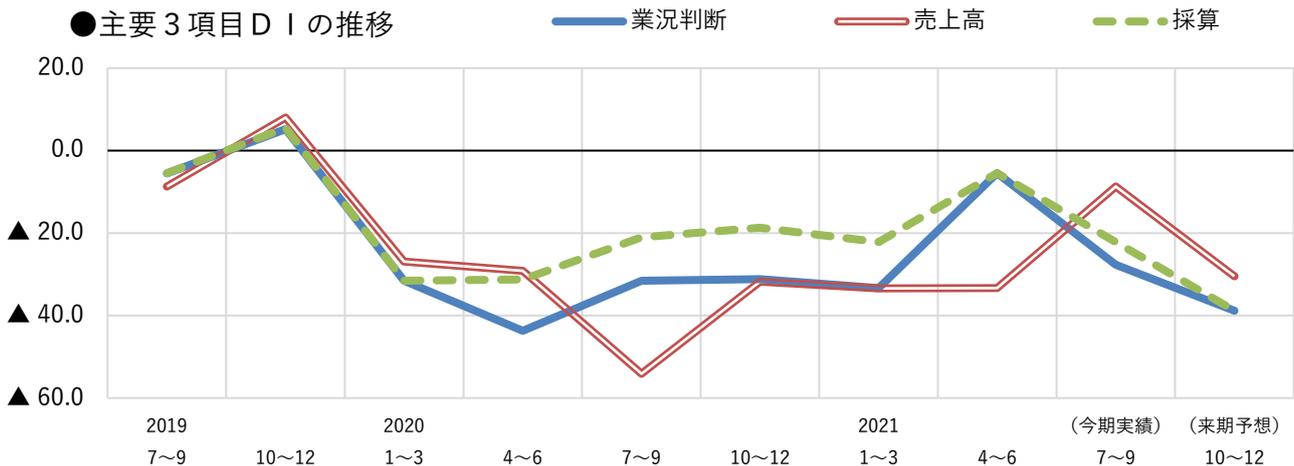
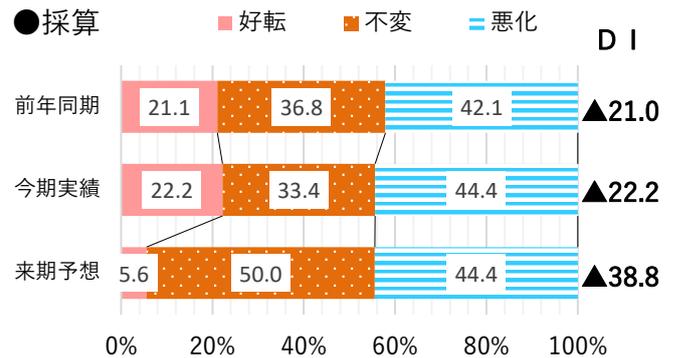
今期の売上高DIは▲8.7で、前年同期と比べ45.4ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期は、売上の減少傾向が強まると予想しています。



今期の採算DIは▲22.2で、前年同期と比べ1.2ポイント低下しました。

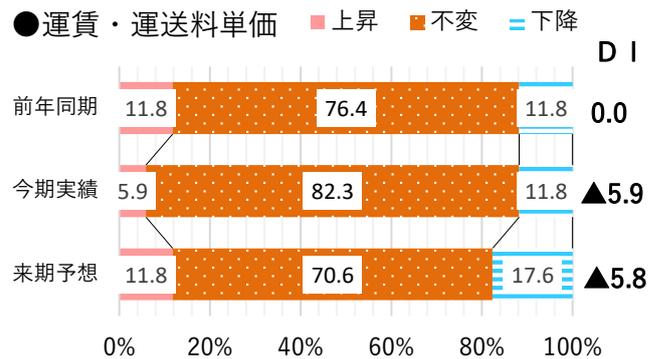
来期は、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



運賃・運送料単価、保管料単価

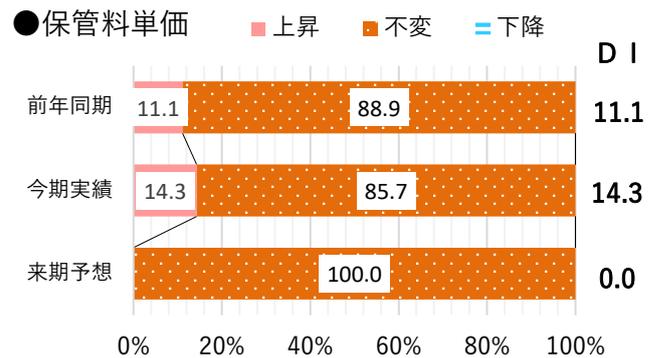
今期の運賃・運送料単価DIは▲5.9で、前年同期と比べ5.9ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、運賃・運送料単価に大きな変化はないと予想しています。



今期の保管料単価DIは14.3で、前年同期と比べ3.2ポイント上昇しました。

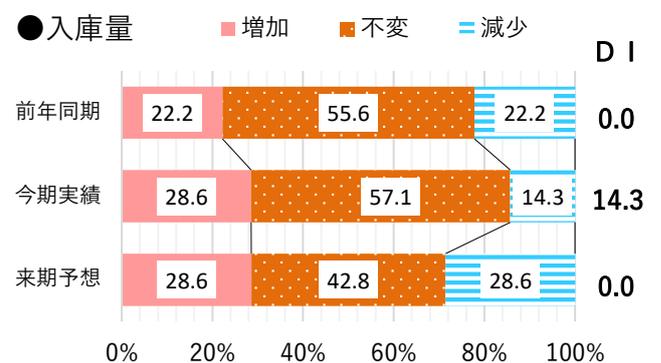
来期は、保管料単価に変化はないと予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

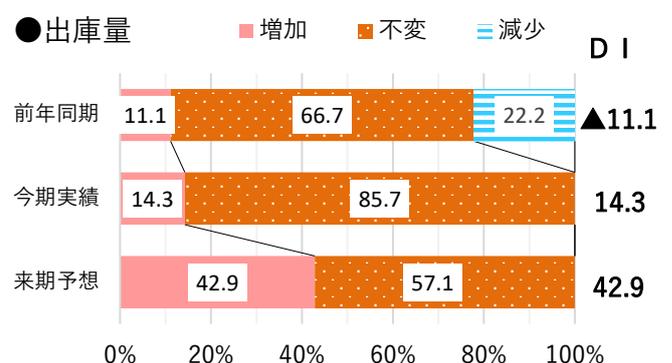
今期の入庫量DIは14.3で、前年同期と比べ14.3ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、入庫量の増加傾向が弱まると予想しています。



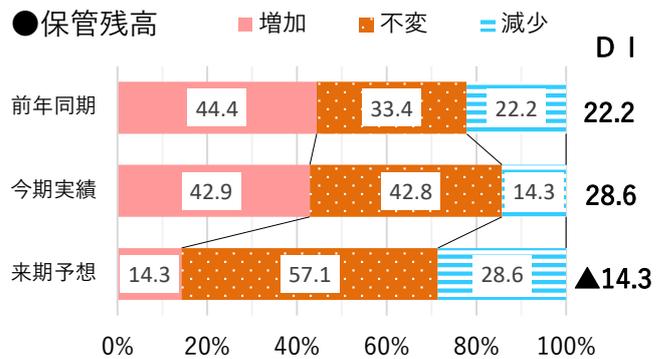
今期の出庫量DIは14.3で、前年同期と比べ25.4ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、出庫量の増加傾向が強まると予想しています。



今期の保管残高DIは28.6で、前年同期と比べ6.4ポイント上昇しました。

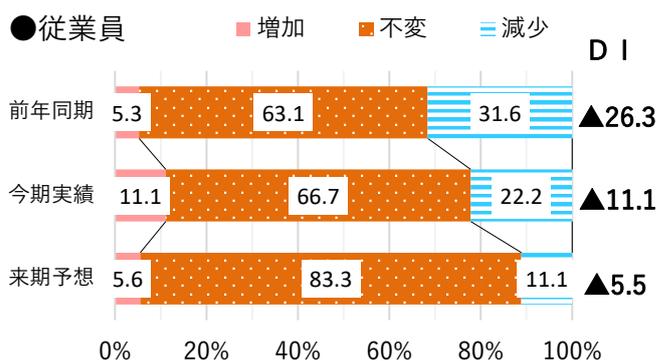
来期は、保管残高が大幅に減少し、マイナスに転じると予想しています。



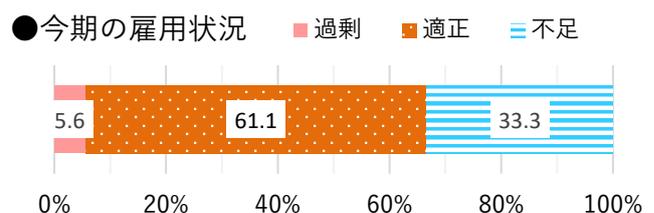
### 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲11.1で、前年同期と比べ15.2ポイント上昇しました。

来期は、従業員の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は5.6%、適正であると回答した企業の割合は61.1%、不足していると回答した企業の割合は33.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、運輸・倉庫業全体の50.0%を占めています。

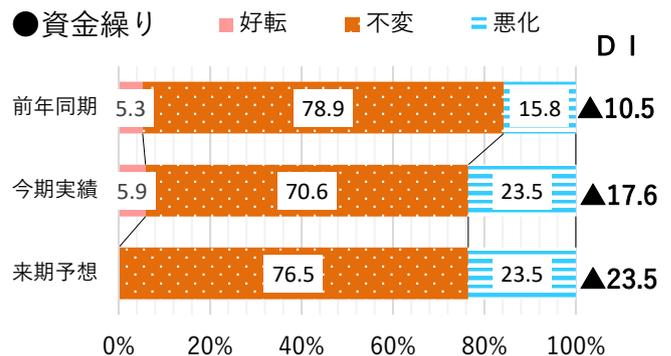
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	0
不変だった	過剰	1
	適正	9
	不足	2
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	4

資金繰り、設備投資

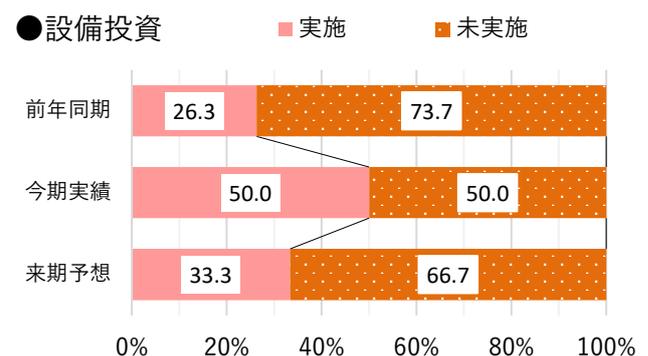
今期の資金繰りDIは▲17.6で、前年同期と比べ7.1ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が続くと予想しています。



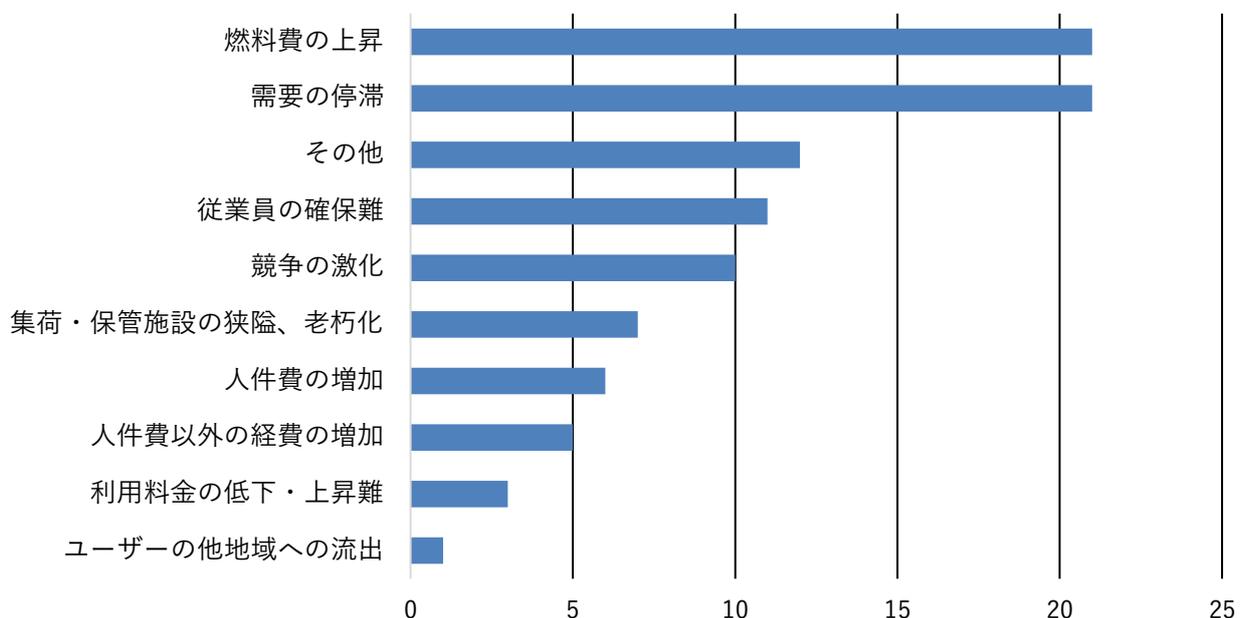
設備投資を実施した企業の割合は50.0%で、前年同期と比べ23.7ポイント上昇しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「その他」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は33.3%で、低下を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「燃料費の上昇」、「需要の停滞」（同位）、2位が「その他」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 運賃、荷役賃単価の交渉が難航し、予算計上した分の売上を確保できていない。昨年比で燃料費が大幅に上昇したこともあり、業績が悪化した。(道路貨物運送)
- 燃料費が上昇した。猛暑により道内で干ばつが生じ、農産物の輸送量が低下した。(道路貨物運送)
- 需要が停滞し、運搬量が減少した。燃料費が上昇したため、経費は増加した。(道路貨物運送)
- 内麦・米関係の倉庫保管量及び輸送量の増加により、収益が増加した。(道路貨物運送)
- 天候不順のため、農作物の輸送量が減少した。燃料価格が上昇した。(道路貨物運送)
- 相次ぐ緊急事態宣言、まん延防止等重点措置により域内の需要が停滞した。昨年より厳しい経営状況下にあるにも関わらず、支援策は縮減傾向のため、業況は悪化した。(道路旅客運送)
- 7月の売上はやや増加したが、まん延防止等重点措置、緊急事態宣言の発出により8月以降は減少した。LPガスの価格が高く、負担となっている。(道路旅客運送)
- 前年同期比で売上が増加した。(道路旅客運送)
- 在庫量が減少した。(倉庫)
- コロナ禍が続いているが、貨物量は減少していない。今後は燃料費の高騰が懸念される。(港湾運送)
- 緊急事態宣言の延長によって、旅客の利用自粛が続いているが、昨年よりは若干の回復傾向にある。経済活動の停滞や干ばつによる農産物の不作、収穫量の減少により、輸送量は減少した。(水運)

[来期の業況について]

- 運賃、荷役賃単価の交渉が円滑に進み、出荷量が一昨年並みに回復することで、業況の好転を見込む。(道路貨物運送)
- 安定的な発注があった公共工事が一部停滞することで、業況は悪化すると思われる。(道路貨物運送)
- 燃料費の上昇と、農産物の輸送量減少が続くと思われる。(道路貨物運送)
- まん延防止等重点措置、緊急事態宣言の影響が続き、売上は減少すると思われる。昨年はGoToキャンペーンで売上が増加したが、今年は期待できない。最低賃金の引き上げも負担となる。(道路旅客運送)
- まん延防止等重点措置、緊急事態宣言によって停滞した需要は回復しないと思われる。支援策の拡充を求める。(道路旅客運送)
- 在庫量の減少に加え、出庫量の増加が予想される。(倉庫)
- 旅客運送のピークが過ぎ、GoToキャンペーンの利用が見込めないため、業況の悪化を見込む。燃料価格の上昇で、輸送単価が上昇すると思われる。干ばつによる農産物の収穫量減少の影響は続き、経済活動の回復には期待できない。(水運)

# 観光業

## 業況、売上、採算

今期（2021.7～9）の業況判断DIは▲52.8で、前年同期(2020.7～9)と比べ44.5ポイント上昇し、大幅に好転しました。

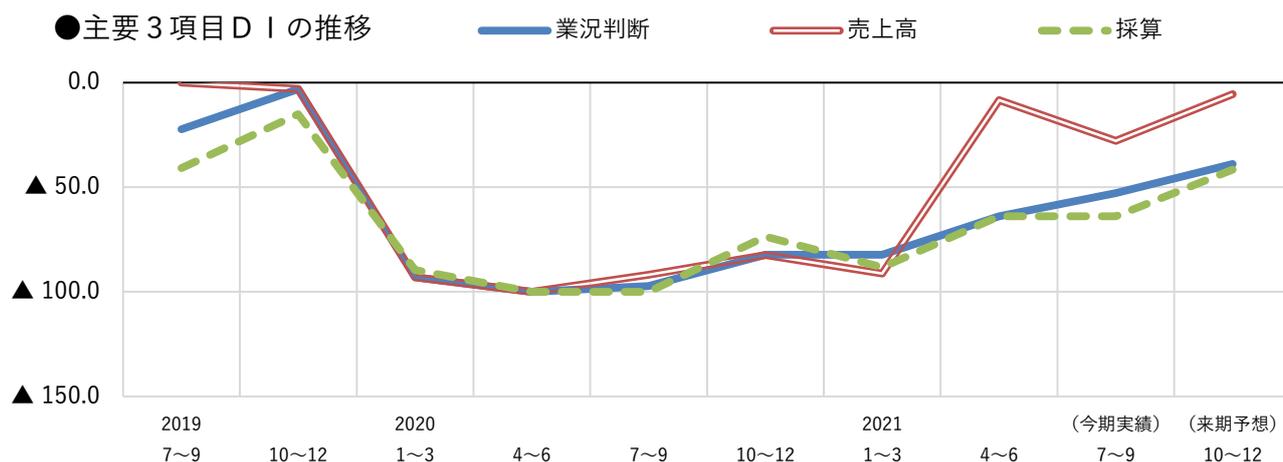
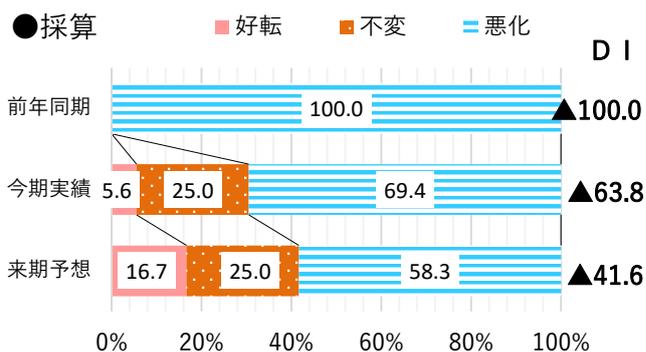
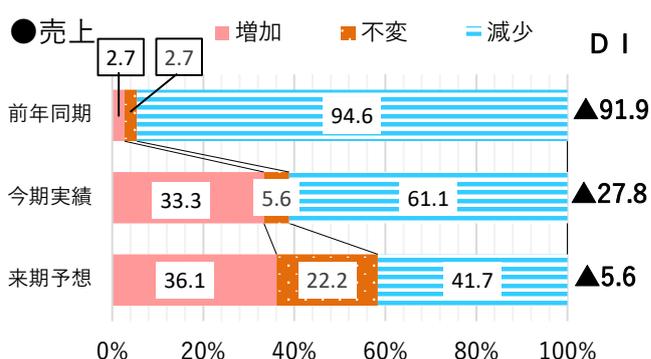
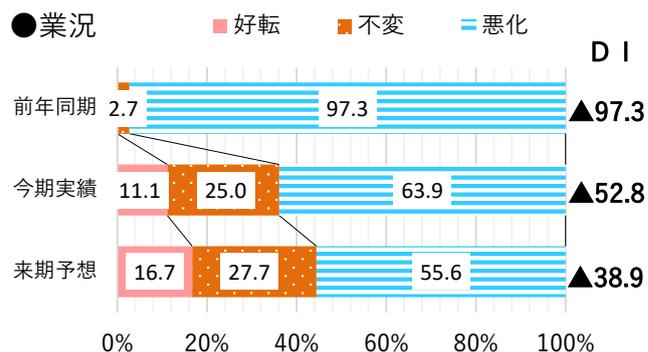
来期（2021.10～12）は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。

今期の売上DIは▲27.8で、前年同期と比べ64.1ポイント上昇し、大幅に増加しました。

来期は、売上の減少傾向が弱まると予想しています。

今期の採算DIは▲63.8で、前年同期と比べ36.2ポイント上昇し、大幅に好転しました。

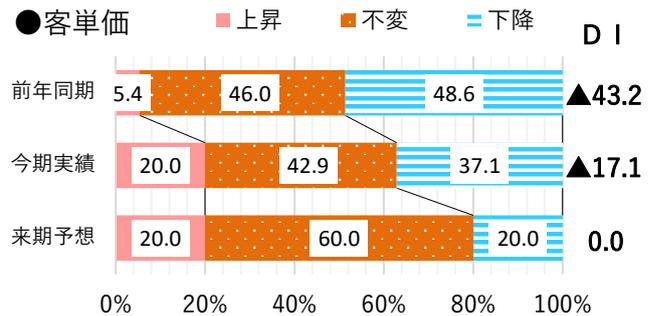
来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

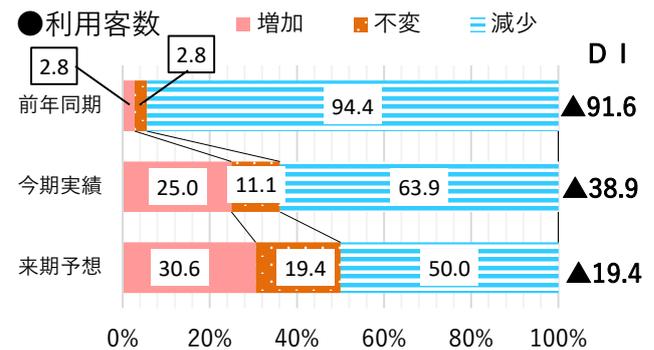
今期の客単価DIは▲17.1で、前年同期と比べ26.1ポイント上昇しました。

来期は、客単価の下降傾向が弱まると予想しています。



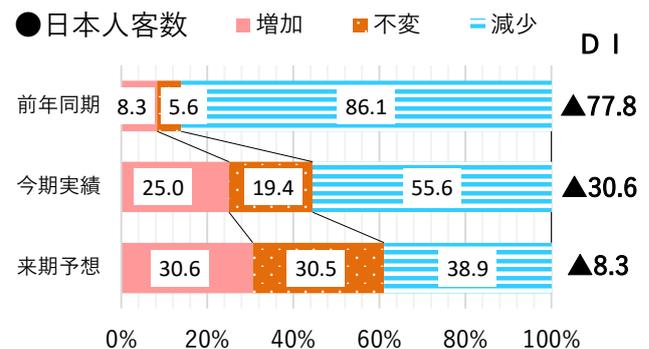
今期の利用客数DIは▲38.9で、前年同期と比べ52.7ポイント上昇し、大幅に増加しました。

来期は、利用客数の減少傾向が弱まると予想しています。



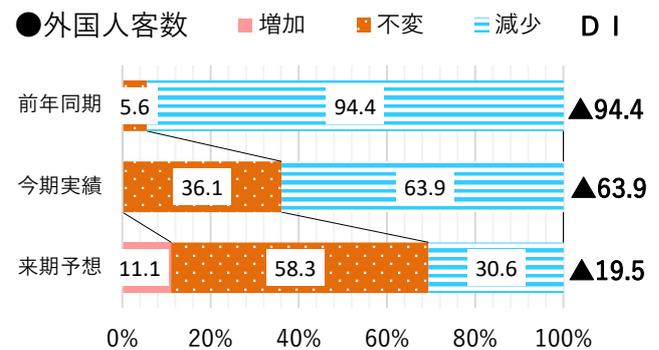
今期の日本人客数DIは▲30.6で、前年同期と比べ47.2ポイント上昇し、大幅に増加しました。

来期は、日本人客数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の外国人客数DIは▲63.9で、前年同期と比べ30.5ポイント上昇し、大幅に増加しました。

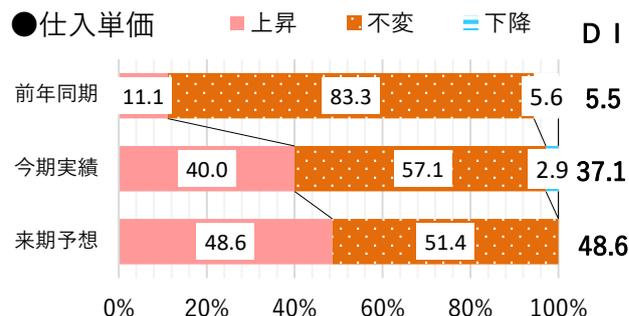
来期は、外国人客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



## 仕入単価

今期の仕入単価DIは37.1で、前年同期と比べ31.6ポイントと大幅に上昇しました。

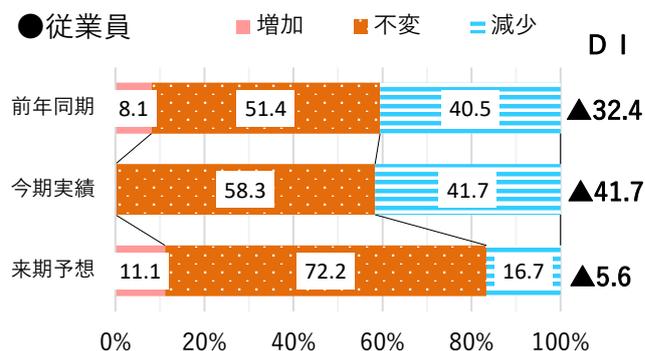
来期は、仕入単価の上昇傾向が強まると予想しています。



## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲41.7で、前年同期と比べ9.3ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は27.8%、適正であると回答した企業の割合は52.8%、不足していると回答した企業の割合は19.4%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、観光業全体の33.3%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、充足している」という回答でした。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	0
不変だった	過剰	5
	適正	12
	不足	4
減少した	過剰	5
	適正	7
	不足	3

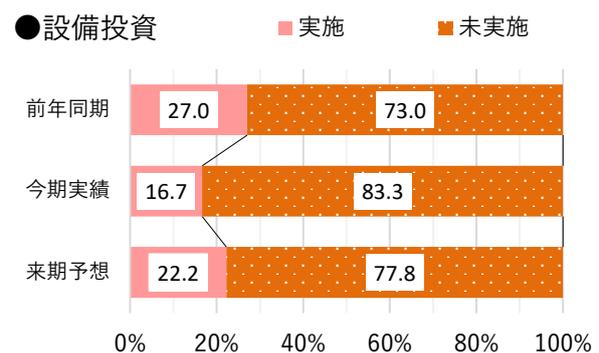
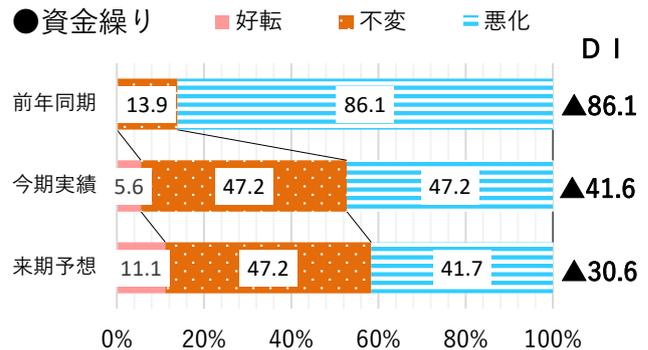
## 資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲41.6で、前年同期と比べ44.5ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。

設備投資を実施した企業の割合は16.7%で、前年同期と比べて10.3%減少しました。投資内容は、1位が「建物」、  
「サービス設備」、「車両運搬具」、  
「付帯施設」（同位）、2位が「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は22.2%で、増加を予想しています。

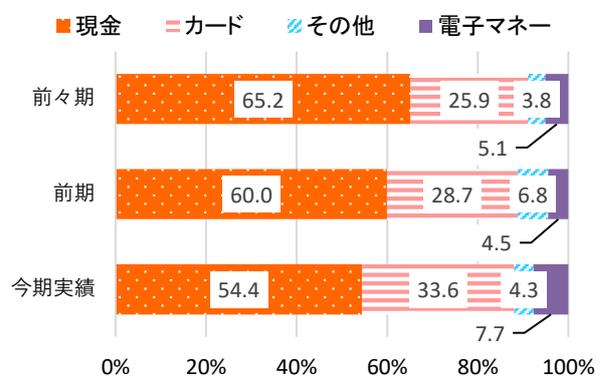


## 今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で54.4%、2位がカードで33.6%、3位がその他で4.3%、4位が電子マネーで7.7%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、GoToイート等の食事券、クーポン券、掛売り、銀行振込、教職員互助会等発行の宿泊補助券です。

●今期利用客の決済方法(%)

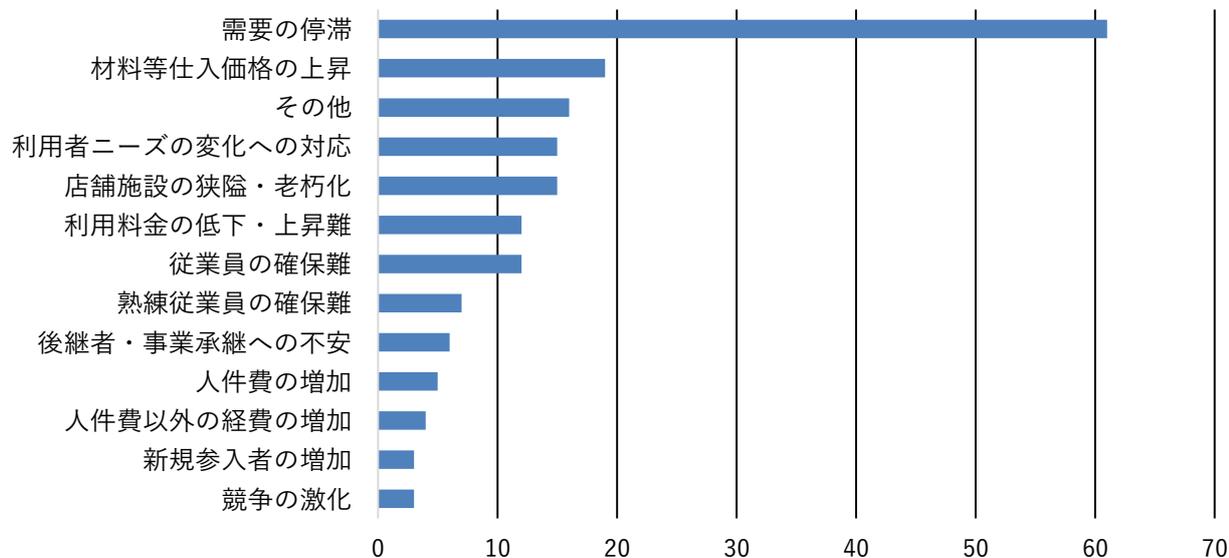


## 客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は39.6%でした。

## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「その他」の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- 昨年と異なり、G o T oキャンペーンが無いいため、売上が大幅に減少した。9月は特に大きく減少した。昨年同様、インバウンドの利用はない。(ホテル)
- コロナ禍で国内客は減少し、インバウンドは皆無だったため、決算は赤字だった。(ホテル)
- 日本人客が減少し、インバウンドの利用はない。仕入価格と人件費の上昇で、状況は厳しい。(ホテル)
- 新型コロナウイルスが終息しない限り、業況に大きな変化はないと思われる。(ホテル)
- G o T oキャンペーン等の施策がなく、大変厳しい状況にある。(ホテル)
- 昨年同期比の業況は回復したが、コロナ禍以前から低迷が続いている。(コテージ・ペンション)
- 観光客が増えている印象はあるが、インバウンドの来客が期待できない今日では、ツアー等で定期的な来客が無ければ、利益の確保は難しい。(飲食店)
- アルコールの提供ができず、売上が伸び悩んだ。(飲食店)
- 今の状況では日本人客、インバウンドともに増加を見込めない。(飲食店)
- コロナ禍が終息しない限り、明るい展望が持てない。繰り返される緊急事態宣言に辟易する。(飲食店)
- インバウンド、宴会の減少により業況が悪化した。(飲食店)
- コロナ禍による観光客の減少と業績の悪化が続く。不況で取引先が破綻しており、自社も今後の資金繰りを懸念している。ネット通販などに注力し、小さな積み重ねによる立て直しを計画している。(土産品)
- 7～8月前半は観光客が少し増えたが、緊急事態宣言とまん延防止措置によって人出が減り、予約のキャンセルや延期が相次いだ。(土産品)
- 緊急事態宣言のため、店を開けられず、売上はほぼ0円だった。自社は飲食業ではないので、補助されない状況だった。(土産品)
- 昨年同様、コロナ禍によって業況は回復しなかった。(土産品)
- 新型コロナウイルスの感染が終息しないため、業況は悪化した。(土産品)
- 観光客の減少により、物販の売上が減少した。(土産品)
- 原材料価格の上昇により、業況が悪化した。(土産品)

- レジャー利用の対前年度比の売上は、7月が170%、8月が120%と好調だった。しかし、インバウンドによる売上はほぼないので、影響は出ている。(レンタカー)
- 緊急事態宣言、まん延防止重点措置期間だったが、前年同期比の受注は増えた。(レンタカー)
- 8月27日から9月12日までの緊急事態宣言の影響で、売上が減少した。(社会教育)
- 国内客が回復したが、新型コロナウイルスの拡大と緊急事態宣言により再度減少した。(娯楽業)
- 業況が変化する要因は見当たらない。(娯楽業)
- 緊急事態宣言を受け、8月下旬から9月末まで運休したため、業績は悪化した。(船舶貸渡業)
- 緊急事態宣言により、8/27～9/12まで休業し、前年と同程度の客数、売上となった。(水運業)

#### [来期の業況について]

- 国内需要は段階的に回復すると思われるが、インバウンドの動向は分からない。今期と比べ業況は好転すると思われるが、人件費の増加が予想される。(ホテル)
- 新型コロナウイルスの感染状況に左右されるため、見通しが立たない。(コテージ・ペンション)
- 今期と比べ、少しは好転すると思われる。今期以上の悪化はないと予想する。(土産品)
- 単価等を再検討し、地元客の増加を図る必要がある。(飲食店)
- ワクチン接種が浸透してきたとはいえ、変異を繰り返す新型コロナウイルスが脅威となる状況が続き、大きな変化は期待できないと思われる。(飲食店)
- 緊急事態宣言の解除に期待する。(飲食店)
- 緊急事態宣言が解除されれば、客数は回復すると思われる。(飲食店)
- ワクチンの供給が進めば、客数の増加に期待が持てる。(飲食店)
- インバウンドの減少が続くと思われる。(飲食店)
- 今期同様、客数増加は見込めない。昨年はGoToキャンペーンがあり、年末までに一定の売上を確保できたが、今年は期待できない。次の資金繰りについて金融機関に相談しているが、保証付き融資は満額まで借り入れて使い尽くしたので、プロパー資金で対応してくれるのか不安に感じている。原油価格の高騰に伴う原材料の値上げも懸念している。(土産品)
- 新型コロナウイルスの状況は変わらないと思われる。(土産品)
- 今期と比べ好転すると思われるが、大幅な回復は期待できない。(土産品)
- 新型コロナウイルス流行が続くと思われる。(土産品)
- 原材料仕入単価の高止まりが続くと思われる。(土産品)
- 新型コロナウイルスの状況に左右される。(土産品)
- 原材料価格が更に上昇すると思われる。(土産品)
- 見通しが立たない。(土産品)
- 昨年はGoToキャンペーンの影響もあり、好転した時期もあったが、今年はレジャー利用が見込めず、出張者のビジネス利用も減少しているので、厳しい状況が予想される。(レンタカー)
- 夏の観光シーズンと冬のスキーシーズンの端境期のため、業況は悪化すると思われる。(娯楽業)
- 新型コロナウイルスが終息し、通常営業となれば業況は改善すると思われる。(船舶貸渡業)
- 閑散期のため、客数、売上ともに減少すると思われる。(水運業)

# サービス業

## 業況、売上、採算

今期（2021.7～9）の業況判断DIは▲30.5で、前年同期(2020.7～9)と比べ16.1ポイント上昇しました。

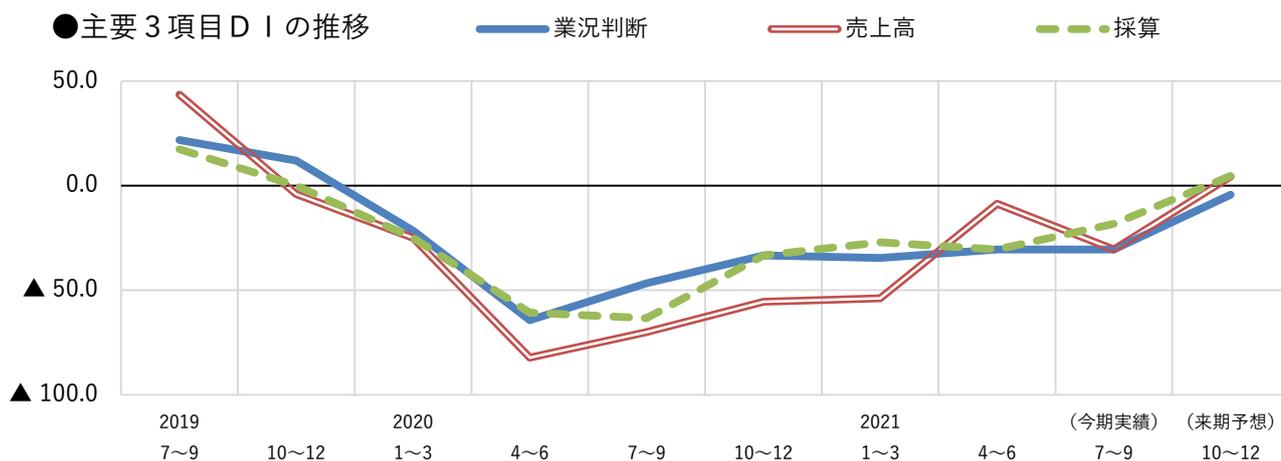
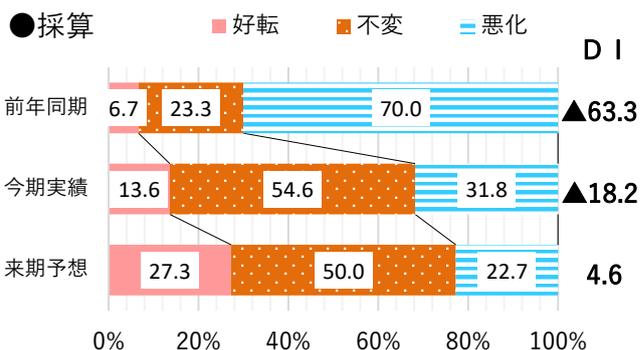
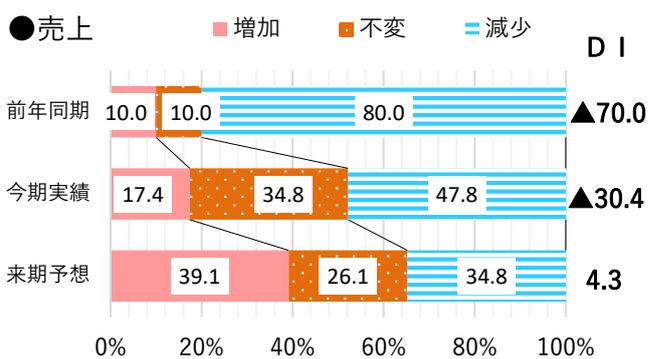
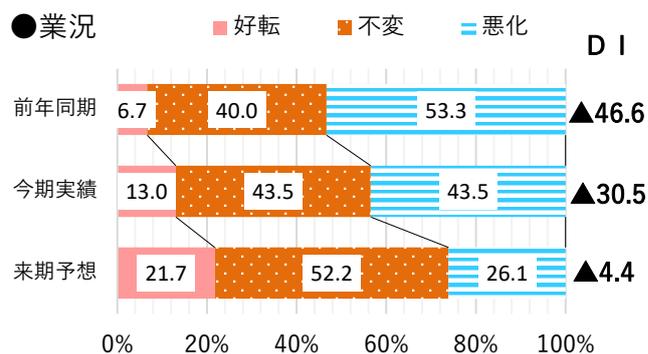
来期（2021.10～12）は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。

今期の売上高DIは▲30.4で、前年同期と比べ39.6ポイント上昇し、大幅に増加しました。

来期は、売上が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。

今期の採算DIは▲18.2で、前年同期と比べ45.1ポイント上昇し、大幅に好転しました。

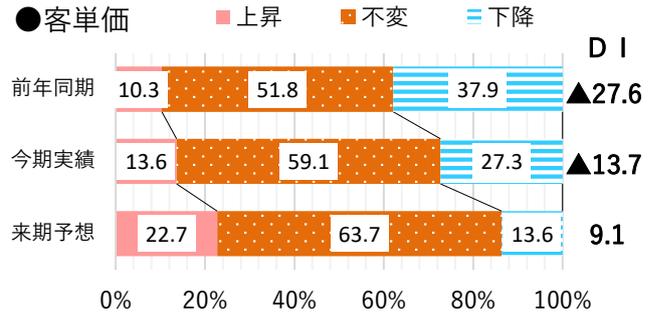
来期は、採算がプラスに転じると予想しています。



客単価、利用客数、仕入単価

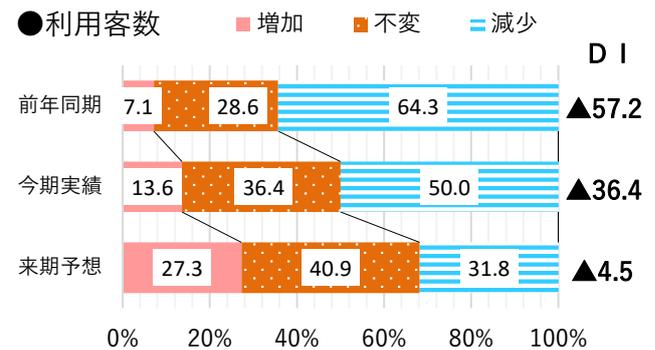
今期の客単価DIは▲13.7で、前年同期と比べ13.9ポイント上昇しました。

来期は、客単価がプラスに転じると予想しています。



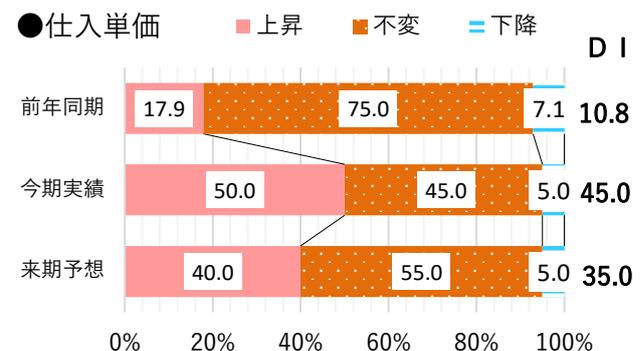
今期の利用客数DIは▲36.4で、前年同期と比べ20.8ポイント上昇しました。

来期は、利用客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の仕入単価DIは45.0で、前年同期と比べ34.2ポイントと大幅に上昇しました。

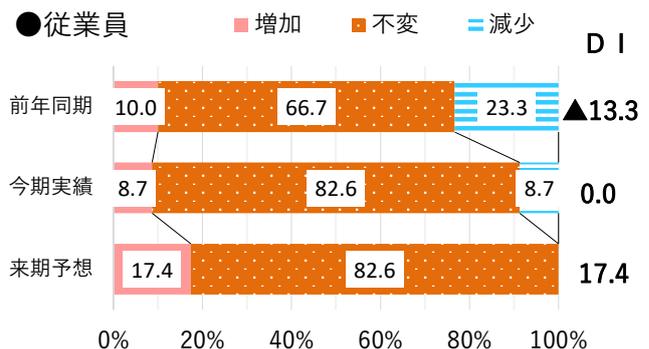
来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは0.0で、前年同期と比べ13.3ポイント上昇しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は8.7%、適正であると回答した企業の割合は65.2%、不足していると回答した企業の割合は26.1%でした。



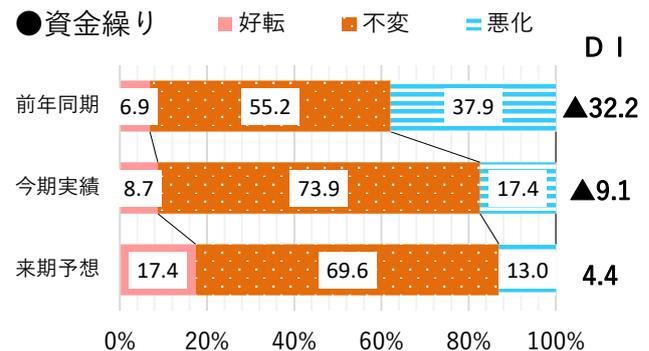
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、サービス業全体の52.1%を占めています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	0
不変だった	過剰	2
	適正	12
	不足	5
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	1

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

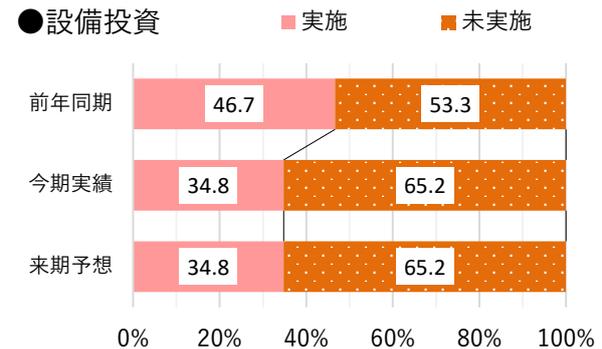
### 資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲9.1で、前年同期と比べ23.1ポイント上昇しました。



来期は、資金繰りの好転を予想しています。

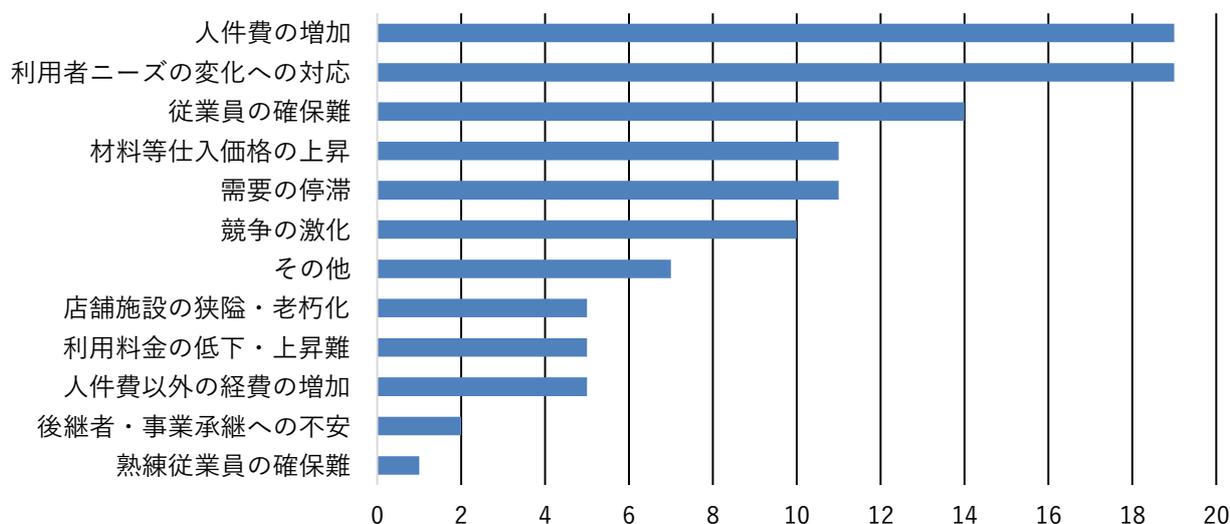
設備投資を実施した企業の割合は34.8%で、前年同期と比べ11.9%減少しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、2位が「建物」、「車両運搬具」（同位）の順です。



来期に設備投資を計画している企業の割合は34.8%で、横ばいを予想しています。

## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「人件費の増加」、「利用者ニーズの変化への対応」（同位）、2位が「従業員の確保難」、3位が「材料等仕入価格の上昇」、「需要の停滞」（同位）の順です。



## 企業の声

### [今期の業況について]

- 新型コロナウイルスの第4波以降は、客足が戻り安心した。第5波の緊急事態宣言で休業を余儀なくされたが、給付金、雇用調整助成金でしのぐことができた。（飲食店）
- まん延防止等重点措置、休業要請によって売上が減少した。（飲食店）
- コロナ禍による広告数の減少に伴い、売上も減少した。（出版業）
- プレー代金の値下げをせずに、客数を維持できた。顧客のプレー単価は上昇した。（スポーツ施設）
- 集客は回復したが、成約につながらなかった。（不動産代理・仲介業）
- 業況が特に悪化した昨年と比べると好転したが、楽観視はしていない。本来あるべき売上がコロナ禍によって大幅に減少したが、官公庁からの委託事業により何とか埋め合わせできている。（旅行代理店）
- 昨年同期の業況が悪かったため、相対的に業況が好転した。コロナ禍が続いているが、客数への影響は小さくなり、利用客数は増加した。仕入価格は上昇した。従業員数、賃金は変わっていない。（美容業）
- 緊急事態宣言により、数か月前から受けていた仕事の依頼が全てキャンセルとなった。（写真業）
- コロナ禍ではあるが、前年と比べ、顧客の積極的な姿勢を感じる。仕事の効率が上がったため、雇用がやや過剰な状況にある。（広告代理業）
- ネット販売と店頭販売を併用しているが、店頭販売の売上はほぼなく、業況は悪化している。（保険業）

### [来期の業況について]

- 新型コロナウイルス再拡大の懸念はあるが、9月下旬のシルバーウィーク以降は人流が増加し、売上が増加するのではないかと期待している。更なるワクチン接種、ブースター接種によって、新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めをかけてもらいたい。（飲食店）
- 新型コロナウイルスの終息が見込めず、不安定な状況が続くと思われる。夏の猛暑の影響で、秋に獲れる魚介類の価格が高値で推移している為、仕入単価の上昇は確実だと思われる。（飲食店）
- 最低賃金の引き上げによって経費が増加するが、受注金額に反映できない。（ビルメンテナンス）
- 新規顧客の開拓と、コロナ禍で取引が滞っていた顧客の利用回復に努める。（出版業）
- 今期と変わらない状況が続くと思われる。（スポーツ施設）
- 売上の増加を見込む。（不動産代理・仲介業）

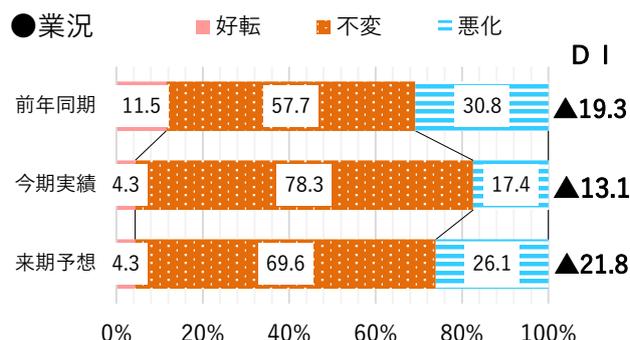
- 緊急事態宣言により、修学旅行が来期にずれ込んだため、売上の増加を見込む。（旅行代理店）
- 新メニューの提供開始や、秋冬に向けた対応を計画している。仕入価格は下がらないと思われる。スタッフの賃金を引き上げる。（美容業）
- 緊急事態宣言が解除され、積極的な投資が進むことで、売上が増加すると思われる。（広告代理業）
- 営業社員を増やして増収を図りたいが、増員は難しいため、現在の人員で努力する。（保険業）

# 建設業

## 業況、売上、採算

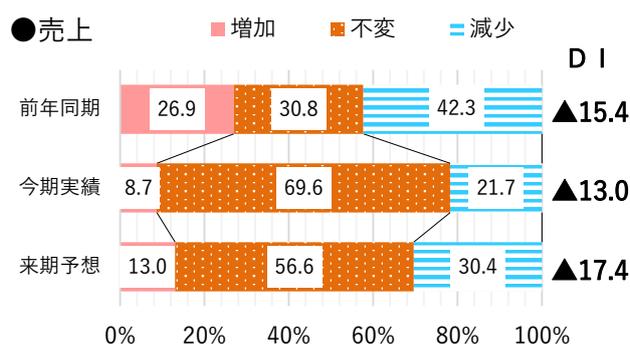
今期（2021.7～9）の業況判断DIは▲13.1で、前年同期(2020.7～9)と比べ6.2ポイント上昇しました。

来期（2021.10～12）は、業況の悪化傾向が強まると予想しています。



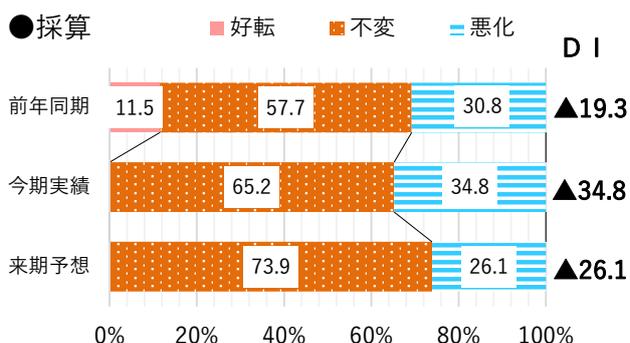
今期の売上高DIは▲13.0で、前年同期と比べ2.4ポイント上昇しました。

来期は、売上の減少傾向が強まると予想しています。

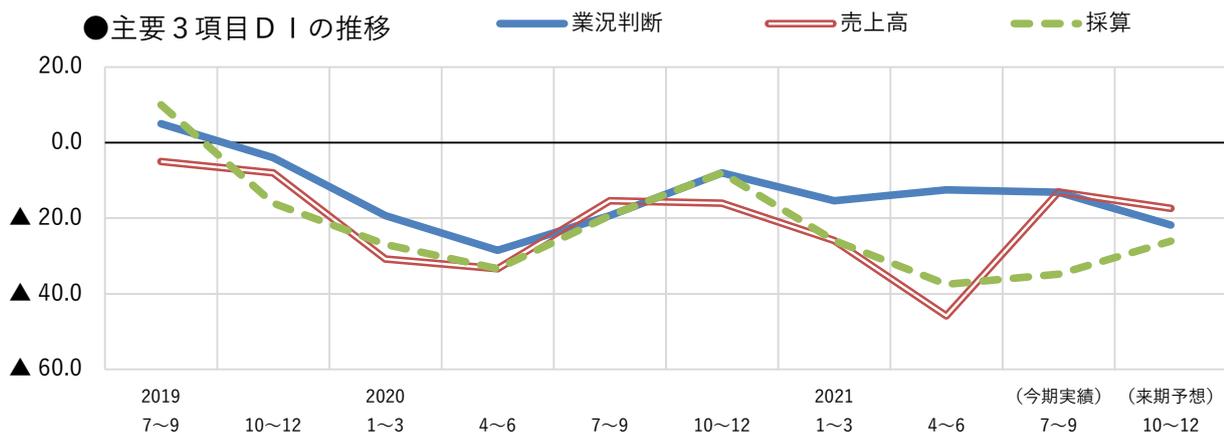


今期の採算DIは▲34.8で、前年同期と比べ15.5ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



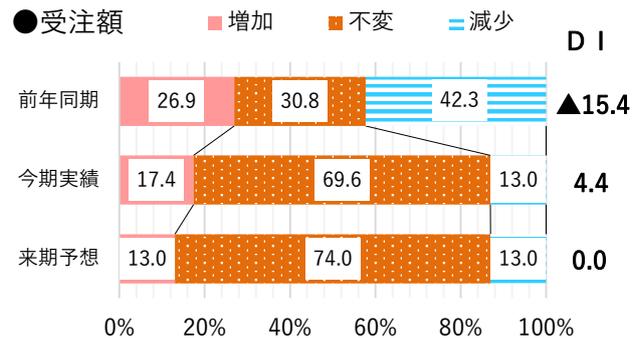
### ●主要3項目DIの推移



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

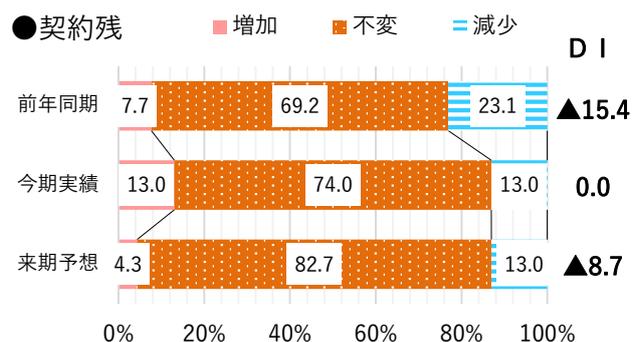
今期の受注額DIは4.4で、前年同期と比べ19.8ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、受注額の増加傾向が弱まると予想しています。



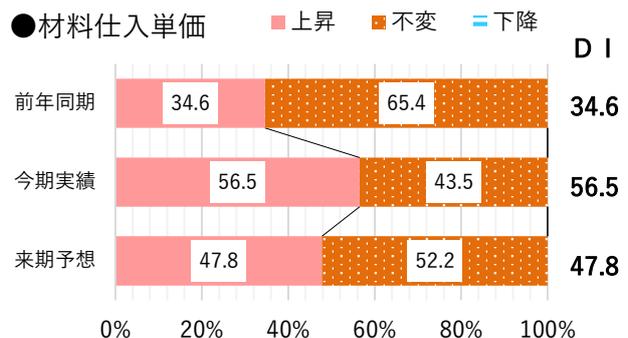
今期の契約残DIは0.0で、前年同期と比べ15.4ポイント上昇しました。

来期は、契約残がマイナスに転じると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは56.5で、前年同期と比べ21.9ポイント上昇しました。

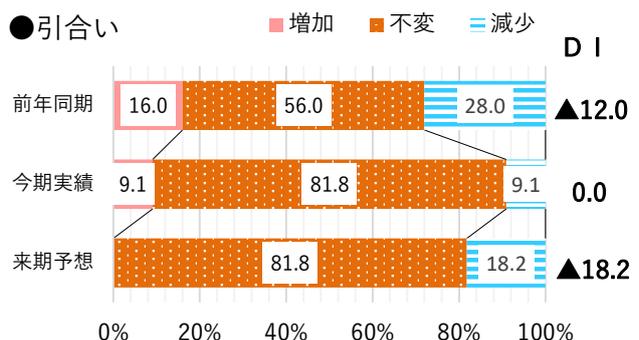
来期は、材料仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



引合い

今期の引合いDIは0.0で、前年同期と比べ12.0ポイント上昇しました。

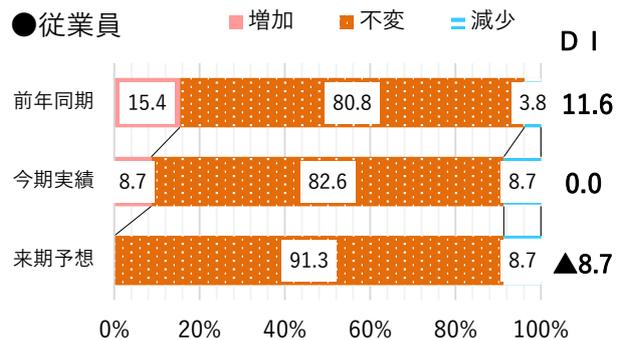
来期は、引合いがマイナスに転じると予想しています。



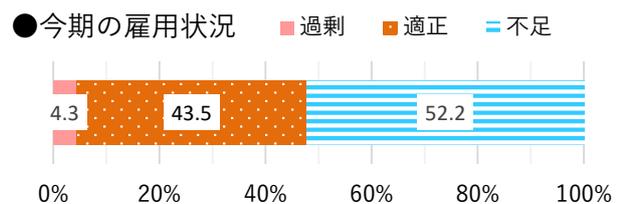
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ11.6ポイント低下しました。

来期は、従業員数がマイナスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は4.3%、適正であると回答した企業の割合は43.5%、不足していると回答した企業の割合は52.2%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、建設業全体の43.4%を占めています。

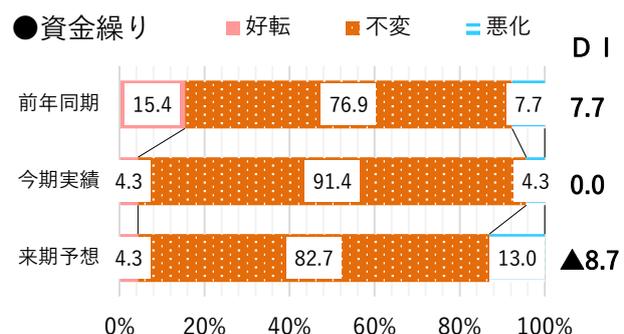
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でした。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	1
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	9
	不足	10
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	2

資金繰り、設備投資

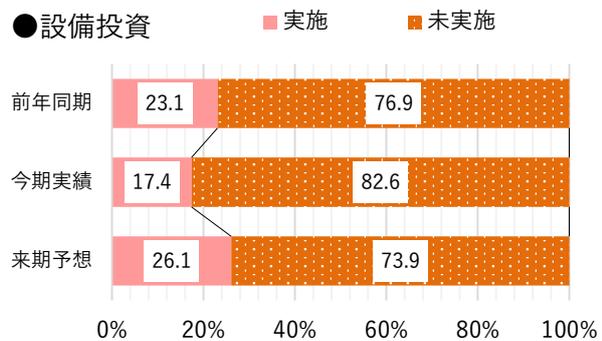
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ7.7ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化を予想しています。



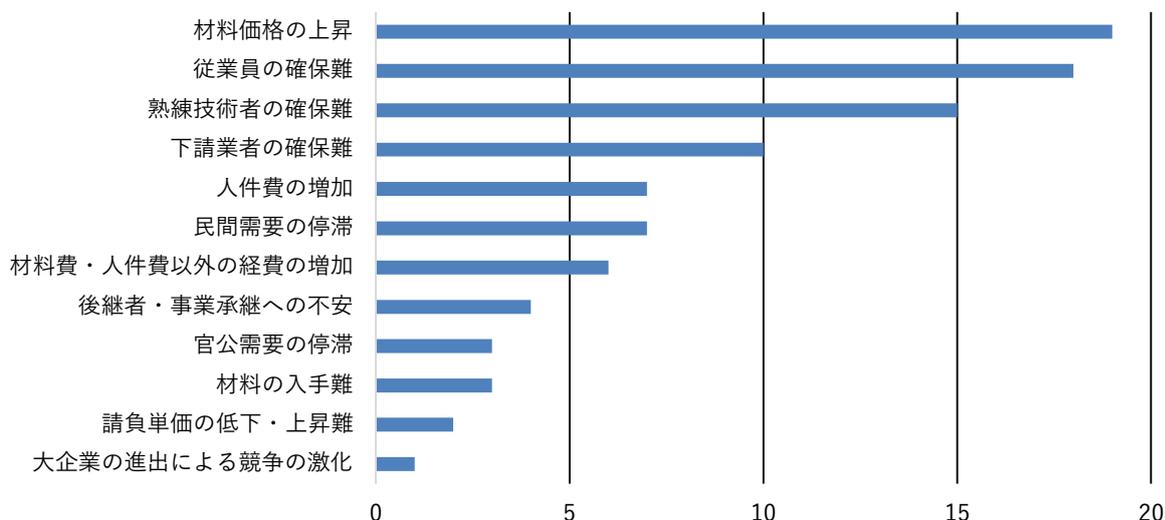
設備投資を実施した企業の割合は17.4%で、前年同期と比べ5.7%低下しました。投資内容は、1位が「土地」、  
「車両運搬具」、「OA機器」（同位）、  
2位が「建物」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は26.1%で、増加を予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、  
3位が「熟練技術者の確保難」の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- 昨年ほど新型コロナウイルスの影響を受けておらず、売上は増加した。影響がない理由が分からないため、やや不安を感じる。木材等の価格が上昇した。事務職員、職人共に不足している。（一般土木工事業）
- 若い従業員の確保に苦労している。（一般土木工事業）
- 売上の減少によって利益が減少したが、利益率は維持している。（一般管工事業）
- 木材の供給不足が続いている。（職別工事業）
- 前年同期と同様に、順調に推移しており、受注内容も改善傾向にある。（電気工事業）
- 各現場の工期が重複したため、期末まで工事士が不足し、新規受注が困難だった。材料価格が高騰し、工事の利益が圧迫された。（設備工事業）

[来期の業況について]

- 他業種が好転しなければ、建設業の景気も好転しないため、回復に期待する。（一般土木工事業）
- 工事の増加を見込むが、従業員が不足している。（一般土木工事業）
- 売上の回復は見込めない。仕入価格の上昇が予想される。（一般管工事業）
- 工事件数が増える予定だが、人材が不足している。（職別工事業）
- 木材の供給不足が続くと思われる。（職別工事業）
- 新型コロナウイルスの影響で、新規受注の減少が見込まれる。（設備工事業）
- 新型コロナウイルスの動向を注視する。（造園業）

# 市内企業倒産状況

2021年7月~9月

負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は1件、前年同期比不変  
負債総額は5,100万円、前年同期比増加

	倒産件数	負債総額
	<u>1件</u>	<u>5,100万円</u>
前年同期比	件数 ±0件 (前年同期 1件)	負債 +3,400万円 (前年同期1,700万円)
■7月 なし		
■8月 なし		
■9月 水産物加工販売（負債5,100万円：販売不振による破産）の1件が発生した。		

## 市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2021年7月~9月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は123件、前年同期比増加  
新設着工住宅戸数は89棟133戸、前年同期比増加

	建築確認申請受付件数	新設着工住宅戸数
	<u>123件</u>	<u>89棟133戸</u>
前年同期比	件数 +33件 (前年同期 90件)	戸数 +22棟42戸 (前年同期 67棟91戸)
※変更確認又は変更通知を除く。		